

市内遺跡試掘調査報告書3

国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅱ

北竹ノ下Ⅰ遺跡
北竹ノ下Ⅱ遺跡
南竹ノ下遺跡
星野遺跡
松の木遺跡
徳田中学校Ⅰ遺跡
徳田中学校Ⅱ遺跡
古田明堂古墳
すくも山古墳
高松大塚遺跡

二〇二三年三月

愛媛県西条市教育委員会

2023年3月

愛媛県西条市教育委員会

市内遺跡試掘調査報告書 3

国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅱ

北竹ノ下Ⅰ遺跡
北竹ノ下Ⅱ遺跡
南竹ノ下遺跡
星野遺跡
松の木遺跡
徳田中学校Ⅰ遺跡
徳田中学校Ⅱ遺跡
古田明堂古墳
すくも山古墳
高松大塚遺跡

2023年3月

愛媛県西条市教育委員会

序 文

西条市教育委員会では、平成 26 年度から令和 3 年度にかけ、国営緊急農地再編整備事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は、令和元年度に『市内遺跡試掘調査報告書 国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅰ』として刊行しておりますが、本書はその続編として平成 29 年度から令和 3 年度までの調査成果をまとめたものです。

試掘調査はいずれも限られた範囲ではありますが、実施した各団地で遺跡の広がりを確認でき、多くの貴重な資料を得ることができました。本書が西条市の歴史や考古学の研究資料として、多くの皆様に活用いただければ幸いに存じます。

また、市教育委員会では、今後も農林水産省中国四国農政局と調整を行い、事業の円滑化を図るとともに適切な文化財保護に努めてまいります。

結びに、調査に際しご指導とご協力をいただきました関係機関及び地権者・地元の方々に心からお礼を申し上げます。

令和 5 年 3 月

西条市教育委員会
教育長 伊藤 隆志

例 言

- 1 本書は、平成 29 年度から令和 3 年度に国営緊急農地再編整備事業に伴い実施した愛媛県西条市内に所在する埋蔵文化財の試掘調査報告書である。
- 2 試掘調査および報告書作成は、国庫補助事業として西条市教育委員会が実施した。
- 3 本書に使用した方位は座標北を示す。
- 4 本書における土層・遺物の色調については、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。
- 5 本書の執筆および編集は、鈴木圭が行った。
- 6 出土遺物及び関係資料は、西条市教育委員会で保管している。
- 7 遺物実測については、株式会社イビソク愛媛営業所に一部を委託した。
- 8 金属製品の X 線写真撮影については、国立大学法人愛媛大学アジア古代産業考古学研究センターの協力を得た。
- 9 遺物実測図は、土器の種類ごとに断面の明度を分けている。
縄文土器・弥生土器・土師器は塗り 0 %（白抜き）、須恵器は 100 %（■）、黒色土器・瓦器・瓦質土器は 20 %（■）、陶器は 60 %（■）、磁器は 80 %（■）、その他は 40 %（■）で図示している。
- 10 試掘調査並びに報告書作成に当たっては、下記の関係機関からご教示、ご協力を得た。
記して感謝の意を表する。
（五十音順、敬称略）
愛媛県教育委員会、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター、国立大学法人愛媛大学



本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 調査の体制	6
第2章 調査地の位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の方法	13
第2節 安用団地	14
第3節 古田団地	24
第4節 高松団地	46
第4章 総括	60

挿 図 目 次

図 1-1	試掘調査地位置図	1	図 3-18	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 2	33	
図 2-1	表層地質図	8	図 3-19	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 3	34	
図 2-2	主要道路分布図	9	図 3-20	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 4	35	
図 3-1	安用団地トレンチ位置図	15	図 3-21	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 5	36	
図 3-2	安用団地試掘調査	土層断面図 1	16	図 3-22	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 6	37
図 3-3	安用団地試掘調査	土層断面図 2	17	図 3-23	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 7	38
図 3-4	安用団地確認調査	土層断面図 1	18	図 3-24	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 8	39
図 3-5	安用団地確認調査	土層断面図 2	19	図 3-25	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 9	40
図 3-6	安用団地試掘調査	出土遺物	20	図 3-26	古田明堂古墳周辺	土層断面図	40
図 3-7	安用団地確認調査	出土遺物 1	21	図 3-27	星野遺跡・松の木遺跡周辺	出土遺物	41
図 3-8	安用団地確認調査	出土遺物 2	22	図 3-28	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	出土遺物	43
図 3-9	安用団地確認調査	出土遺物 3	22	図 3-29	高松団地トレンチ位置図		47
図 3-10	古田団地トレンチ位置図		25	図 3-30	すくも山古墳周辺	土層断面図 1	48
図 3-11	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 1	26	図 3-31	すくも山古墳周辺	土層断面図 2	49
図 3-12	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 2	27	図 3-32	すくも山古墳周辺	土層断面図 3	50
図 3-13	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 3	28	図 3-33	すくも山古墳周辺	土層断面図 4	51
図 3-14	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 4	29	図 3-34	すくも山古墳周辺	土層断面図 5	52
図 3-15	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 5	30	図 3-35	高松太塚遺跡周辺	土層断面図	53
図 3-16	星野遺跡・松の木遺跡周辺	土層断面図 6	31	図 3-36	すくも山古墳周辺	出土遺物	53
図 3-17	徳田中学校 I・II 遺跡周辺	土層断面図 1	32				

挿 表 目 次

表 1-1	年度別試掘・確認調査箇所数と面積	2	表 2-1	中山川以北における近年の発掘調査一覧	11
表 1-2	西条市教育委員会体制一覧	6	表 3-1	遺物観察表	56

写 真 目 次

本文中写真		-4	30-12tr 西壁	
写真 1-1	古田団地調査風景	5	30-13tr 西壁	
写真 1-2	安用団地調査風景	6	30-14tr 東壁	
写真 1-3	高松団地調査風景	7	30-15tr 東壁	
写真 1-4	整理作業風景	8	30-16tr 東壁	
写真 3-1	トレンチ設置状況	写真図版 3	南竹ノ下遺跡	北竹ノ下 II 遺跡
写真 3-2	重機による掘削状況	1	30-17tr 南壁	
写真 3-3	人力による精査状況	2	2-1tr 南壁	
写真 3-4	埋め戻し（ランマによる転圧）状況	3	2-2tr 南壁	
		4	1 tr 南壁	
写真図版 1	南竹ノ下遺跡	5	2 tr 南壁	
1	30-1tr 西壁	6	3 tr 西壁	
2	30-2tr 東壁	7	4 tr 西壁	
3	30-3tr 南壁	8	5 tr 南壁	
4	30-4tr 西壁	写真図版 4	北竹ノ下 I 遺跡	南竹ノ下遺跡
5	30-5tr 西壁	1	6 tr 東壁	
6	30-6tr 西壁	2	7 tr 東壁	
7	30-7tr 西壁	3	8 tr 南壁	
8	30-8tr 西壁	4	9 tr 南壁	
写真図版 2	南竹ノ下遺跡	5	10tr 南壁	
1	30-9tr 西壁			試掘調査出土遺物 1
2	30-10tr 東壁			
3	30-11tr 東壁			

写真図版 5 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ道跡 南竹ノ下道跡

試掘調査出土遺物 2

確認調査出土遺物 1

写真図版 6 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ道跡 南竹ノ下道跡

確認調査出土遺物 2

写真図版 7 星野道跡・松の木道跡周辺

1 1-1tr 南壁

2 1-2tr 南壁

3 2tr 南壁

4 3tr 南壁

5 4tr 北壁

6 5tr 北壁

7 6-1tr 南壁

8 6-2tr 南壁

写真図版 8 星野道跡・松の木道跡周辺

1 7-1tr 南壁

2 7-2tr 南壁

3 8-1tr 北壁

4 8-2tr 北壁

5 9tr 北壁

6 10-1tr 南壁

7 10-2tr 南壁

8 11tr 南壁

写真図版 9 星野道跡・松の木道跡周辺

1 12-1tr 南壁

2 12-2tr 南壁

3 13tr 南壁

4 14tr 南壁

5 15-1tr 北壁

6 15-2tr 北壁

7 16tr 南壁

8 17tr 北壁

写真図版 10 星野道跡・松の木道跡周辺

1 18tr 西壁

2 19-1tr 北壁

3 19-2tr 北壁

4 20tr 北壁

5 21-1tr 北壁

6 21-2tr 北壁

7 22tr 北壁

8 23tr 北壁

写真図版 11 星野道跡・松の木道跡周辺

1 24tr 北壁

2 25tr 南壁

3 26tr 北壁

4 27-1tr 南壁

5 27-2tr 南壁

6 28-1tr 南壁

7 28-2tr 北壁

8 29tr 北壁

写真図版 12 星野道跡・松の木道跡周辺

1 30tr 北壁

2 31tr 北壁

3 32-1tr 北壁

4 32-2tr 北壁

5 33-1tr 南壁

6 33-2tr 南壁

7 34tr 南壁

8 35tr 北壁

写真図版 13 星野道跡・松の木道跡周辺

1 37tr 南壁

2 38tr 北壁

3 39tr 北壁

4 40tr 北壁

5 41tr 南壁

6 43tr 北壁

7 44tr 北壁

8 45tr 北壁

写真図版 14 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ道跡周辺

1 1tr 南壁

2 2tr 北壁

3 3tr 北壁

4 4tr 北壁

5 7tr 北壁

6 8tr 北壁

7 9tr 北壁

8 10tr 北壁

写真図版 15 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ道跡周辺

1 11tr 北壁

2 12tr 北壁

3 13tr 北壁

4 14tr 北壁

5 15tr 西壁

6 16tr 北壁

7 17tr 北壁

8 18tr 北壁

写真図版 16 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ道跡周辺

1 20tr 北壁

2 21tr 南壁

3 23tr 北壁

4 24tr 北壁

5 26-1tr 北壁

6 26-2tr 北壁

7 27tr 北壁

8 28tr 北壁

写真図版 17 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ道跡周辺

1 29tr 南壁

2 30tr 北壁

3 31tr 北壁

4 32tr 北壁

5 33tr 北壁

6 34tr 南壁

7 35tr 南壁

8 36tr 南壁

写真図版 18 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ道跡周辺

1 37tr 南壁

2 38tr 南壁

3 39tr 南壁

4 40tr 南壁

5 41tr 南壁

6 42tr 南壁

7 43tr 南壁

8 44tr 南壁

写真図版 19 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

- 1 46tr 南壁
- 2 47tr 南壁
- 3 48tr 南壁
- 4 49tr 南壁
- 5 50tr 西壁
- 6 51tr 南壁
- 7 52tr 西壁
- 8 54tr 南壁

写真図版 20 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

- 1 55tr 西壁
- 2 57tr 南壁
- 3 58tr 南壁
- 4 59tr 南壁
- 5 60tr 南壁
- 6 61tr 南壁
- 7 62tr 南壁
- 8 63tr 南壁

写真図版 21 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

- 1 64tr 南壁
- 2 65tr 南壁
- 3 66tr 南壁
- 4 67tr 南壁
- 5 68tr 西壁
- 6 69tr 西壁
- 7 70tr 南壁
- 8 71tr 北壁

写真図版 22 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

- 1 72tr 西壁
- 2 73tr 北壁
- 3 74tr 北壁
- 4 76tr 南壁
- 5 77tr 北壁
- 6 78tr 南壁
- 7 81tr 南壁
- 8 82tr 南壁

写真図版 23 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

- 1 84tr 東壁
- 2 85tr 西壁
- 3 86tr 西壁
- 4 87tr 南壁
- 5 88tr 南壁
- 6 89tr 西壁
- 7 90tr 南壁
- 8 91tr 西壁

写真図版 24 古田明堂古墳周辺 星野遺跡・松の木遺跡周辺

- 1 1tr 南壁
- 2 2tr 南壁

星野遺跡・松の木遺跡周辺出土遺物 1

写真図版 25 星野遺跡・松の木遺跡周辺 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

星野遺跡・松の木遺跡周辺出土遺物 2

徳田中学校 I・II 遺跡周辺出土遺物 1

写真図版 26 徳田中学校 I・II 遺跡周辺

徳田中学校 I・II 遺跡周辺出土遺物 2

写真図版 27 すくも山古墳周辺

- 1 1tr 北壁
- 2 2tr 南壁
- 3 3tr 東壁
- 4 4tr 南壁
- 5 5tr 南壁
- 6 6tr 北壁
- 7 7tr 北壁
- 8 8tr 東壁

写真図版 28 すくも山古墳周辺

- 1 9tr 南壁
- 2 10tr 西壁
- 3 11tr 東壁
- 4 12tr 南壁
- 5 13tr 北壁
- 6 14tr 南壁
- 7 15tr 南壁
- 8 16tr 南壁

写真図版 29 すくも山古墳周辺

- 1 17tr 東壁
- 2 18tr 東壁
- 3 19tr 東壁
- 4 20tr 東壁
- 5 21tr 南壁
- 6 22tr 南壁
- 7 23tr 南壁
- 8 24tr 南壁

写真図版 30 すくも山古墳周辺

- 1 25tr 東壁
- 2 26tr 北壁
- 3 27tr 東壁
- 4 28tr 西壁
- 5 29tr 西壁
- 6 30tr 西壁
- 7 32tr 西壁
- 8 36tr 南壁

写真図版 31 すくも山古墳周辺

- 1 37tr 西壁
- 2 38tr 北壁
- 3 39tr 南壁
- 4 40tr 東壁
- 5 41tr 南壁
- 6 44tr 東壁
- 7 45tr 東壁
- 8 50tr 東壁

写真図版 32 高松大塚遺跡周辺 すくも山古墳周辺

- 1 1tr 南壁
- 2 4tr 西壁

すくも山古墳周辺出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成25年9月6日、西条市教育委員会（以下、市教委）は、農林水産省中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所（以下、中国四国農政局）から西条市内の中山川左岸地域で計画している国営緊急農地再編整備事業（以下、ほ場整備事業）に伴い、区域内の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、包蔵地）の取扱いについての相談を受けた。これに対し市教委は、包蔵地内及びその隣接地で土木工事を実施する場合は、試掘調査により事前に遺跡の広がりを確認する必要があることを伝えるとともに、試掘調査によって遺跡の存在が確認され、それらが保護できない場合は文化財保護法に基づき本発掘調査が必要となることを説明した。また、今後継続して協議を進めていく上で詳細な工事予定範囲図と全体スケジュールのわかる資料が必要となることから、それらの提示及び工事範囲と包蔵地との関係の把握を依頼した。

その後、同年9月24日、10月21日、31日に協議を行い、今後のスケジュール等について検討した。なお、計画段階で受益面積は約670haに及び、そして工事予定団地の多くに包蔵地が含まれていることを確認した。

全体スケジュールをみると、工事の開始予定は平成28年度であった。協議当初、中国四国農政局からは、工事着工前にすべての試掘調査を終了することができないかとの要望もあったが、さまざまな条件を考慮した結果、試掘調査を工事前に完了することはほぼ不可能であることを伝

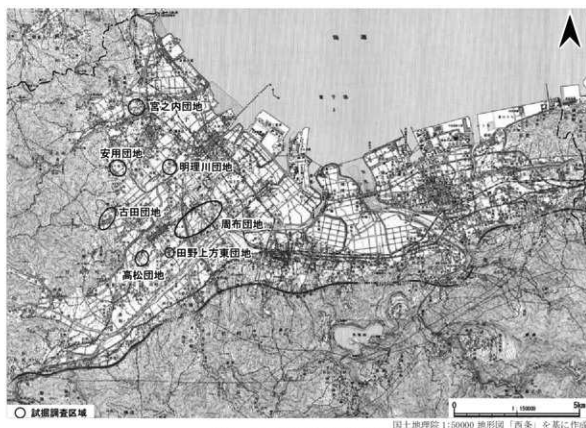


図1-1 試掘調査地位置図

えた。そこで工事着手時期の早い団地から順次試掘調査を実施すること、工事着手の遅い団地については他の団地の工事と並行して試掘調査を行うこととした。

また、安用団地では試掘調査の終了とともに、中国四国農政局がその調査成果を参考に工法を検討した。その結果、遺跡が保護できない箇所があることが判明し、愛媛県教育委員会（以下、県教委）の勧告を受け、平成 30 年度より発掘調査を開始することとなった。発掘調査は、膨大な調査面積を市教委だけで対応することが難しく、工期の遅れを生じさせる可能性があったため、一部を公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センター）に委託している。その発掘調査を進める中、県埋文センターから試掘調査結果と発掘調査成果で遺跡の内容・評価が異なる可能性があり、今後の発掘調査計画の立案に支障をきたす恐れがあることから、遺跡の状況を改めて事前確認するよう依頼があった。そのため、県教委と相談の上、市教委が確認調査を行うこととした。

これらの協議と同時進行で、市教委では試掘及び確認調査に係る予算措置を進め、平成 26 年度から文化庁の国庫補助を受け試掘・確認調査を実施している。

なお、各団地の調査については、中国四国農政局の協力の下、各ほ場整備委員会との協議を行い、必要に応じて地元地権者、耕作者との直接協議を行った上で具体的な時期や場所等を決定した。

表 1-1 年度別試掘・確認調査箇所数と面積

遺跡名	道満寺御蔵跡		北竹ノ下Ⅰ遺跡 北竹ノ下Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡		宮之内遺跡 福成寺横道下遺跡		紫雲院遺跡 龜引遺跡 坂井遺跡		富岡遺跡 幸の水遺跡		屋野遺跡 松の木遺跡 徳田中学校Ⅰ遺跡 古田明堂古墳		すくも山古墳 高松大塚遺跡	
団地名	田野上方面		安用		宮之内		明理川		周布		古田		高松	
年 度	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)	トレンチ数	面積 (㎡)
平成 26	11	51	83	166										
平成 27			11	23	82	164	73	143.5						
平成 28					22	44	22	44	114	225.8				
平成 29							2	4	18	36.6	65	145.4	6	21.8
平成 30			17	34					4	8	22	47.2	5	16.5
令和元											28	84	13	31.5
令和 2			12	44.14							11	22	5	11
令和 3											12	23.2	13	26
計	11	51	123	267.14	104	208	97	191.5	136	270.4	138	321.8	42	106.8
太線の範囲が本報告													合計	
													トレンチ数	面積 (㎡)
													651	1416.6

第2節 調査の経過

試掘調査を開始した平成26年度時点で、工事対象面積ははまだ流動的ではあったが、市内でのモデル地区としてはほ場整備を先行して実施することが確定している団地から調査を開始し、令和3年度に終了した。試掘・確認調査は令和3年度末段階で包蔵地及び包蔵地に隣接する範囲が含まれる7団地、計651か所で実施した（表1-1）。本節では、安用団地のうち平成30年度以降に追加調査を実施した箇所と、平成29年度から着手し令和3年度まで追加調査を行った古田団地と高松団地の調査経過をまとめ、成果については第3章で述べることにする。令和元年度以前に行った各団地における調査経過や成果の詳細は、先に刊行した試掘報告書を参照されたい。

平成29年度

平成28年9月に当該年度のスケジュール等について中国四国農政局と協議を行い、古田団地、高松団地の試掘調査を開始することとなった。

古田団地 当団地には、星野遺跡、松の木遺跡、徳田中学校Ⅰ遺跡、徳田中学校Ⅱ遺跡、古田明堂古墳が隣接する。前年度に試掘調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て平成29年7月10日に調査箇所を決定した。地権者及び耕作



写真1-1 古田団地調査風景

者から調査時期の指定があったため、8月23日～8月30日、10月31日～11月20日、平成30年1月25日にそれぞれ試掘調査を実施した。当初は69か所の調査を予定し、作付け等の影響を受けつつも65か所で調査を実施し、既存の包蔵地範囲外にも遺跡の広がりを確認した。

高松団地 当団地には、すくも山古墳、高松大塚遺跡が隣接する。前年度に試掘調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て平成29年7月14日に調査箇所を決定した。地権者及び耕作者から調査時期の指定があったため、8月31日、11月20日～11月21日、平成30年1月25日にそれぞれ試掘調査を実施した。調査は8か所を計画し、作付けまたは調査中に周辺の調査結果から遺跡の広がる可能性が低いと判断した2か所以外の6か所で実施し、遺跡の広がりを確認した。

平成30年度

新たに遺跡の広がる可能性が想定された安用団地の追加調査と、前年度の調査成果を踏まえ古田団地、高松団地の追加調査を実施することとなった。

安用団地 ほ場整備範囲内における北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺で実施した試掘調査は、遺跡の広がりを確認し終えたため平成27年度で終了していた。しかし、平成30年1月14日に耕作者がほ場整備範囲南端に隣接する場所で耕作中に土器細片を発見した。発見の連絡を受け、同年2月14日の市教委による現地確認でも土器細片を確認した。このような状況から、整備範囲内に新たな遺跡の存在が想定された。そのため、中国四国農政局と協議を実施し、急速追加の試掘調査を実施することとなった。地元ほ場整備委員会と協議後、平成30年6月25日に調査の時期を決



写真1ー2 安用団地調査風景

定し、水稻収穫後の11月5日～11月8日に13か所の調査を実施した。試掘調査の結果、遺跡の広がり方が確認されたため、より詳細な遺跡範囲を確認すべく、地元ほ場整備委員会の承諾を得てさらに4か所の追加調査を平成31年1月15日～16日に実施した。追加の調査により、ほ場整備範囲内に新たな遺跡の広がる範囲を確定し終了した。その後、新規遺跡は南竹ノ下遺跡として登録されている。

古田団地 平成30年2月27日に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て平成30年8月6日に設定場所と調査時期を決定した。地権者及び耕作者から調査時期の指定があったため、8月27日～8月29日、11月20日～11月28日に分けて調査を実施した。調査は26か所を計画していたが、作付け等の影響を受け4か所は調査をせず、22か所の調査を実施し遺跡の広がりを確認した。

高松団地 平成30年2月27日に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和元年7月25日に設定場所と調査時期を決定した。試掘調査は、調査時期の指定があったため、11月29日～11月30日と平成31年1月17日に分けて実施した。調査は5か所で実施し、遺跡の広がりを確認した。

令和元年度（平成31年度）

前年度の調査成果を踏まえ古田団地、高松団地の追加調査を実施することとなった。

古田団地 平成31年4月に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和元年10月3日に設定場所と調査時期を決定した。試掘調査は、11月29日～12月4日と令和2年2月12日～2月20日に分けて調査を実施した。調査は30か所を計画していたが、作付け等の影響を受け2か所は調査をせず、28か所の調査を実施し遺跡の広がりを確認した。

高松団地 平成31年2月27日に追加トレンチ設置場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和元年7月25日に設定場所と調査時期を決定した。試掘調査は、12月5日～12月9日と令和2年3月17日～3月18日に分けて実施した。調査は18か所を計画していたが、作付け等の影響を受け5か所は調査をせず、13か所の調査を実施した。

令和2年度

安用団地では、南竹ノ下遺跡内の試掘未調査箇所より詳細な遺跡範囲を確認するよう中国四国農政局から依頼があったため、追加の試掘調査を行った。また、県理文センターからの依頼で、発掘調査予定地における確認調査を行った。古田団地と高松団地は、前年度の調査を受けて追加調査を実施することとなった。

安用団地 令和2年4月に中国四国農政局から追加の試掘調査場所の提示があり、地元ほ場整備委員会で確認後、調査時期を決定した。調査は、決定直後の4月30日に2か所を実施し遺跡の広がりを確認している。

また、発掘調査の勧告があった範囲内で、令和2年9月に県埋文センターから確認調査の依頼を受け、12月に地元ほ場整備委員会と協議を行い、調査場所を決定した。令和3年2月16日～2月24日に10か所の調査を行い、工事影響深度内における遺跡の堆積状況の記録を行った。

古田団地 令和2年4月に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和2年10月2日に調査場所と時期を決定した。試掘調査は、10月13日～10月15日に実施した。調査は14か所を計画していたが、作付け等の影響を受け3か所は調査をせず、11か所の調査を実施し遺跡の広がりを確認した。

高松団地 令和2年4月に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和2年10月2日に調査場所と時期を決定した。試掘調査は、10月12日～10月13日と11月27日に分けて実施した。調査は、計画した5か所全てを実施し遺跡の広がりを確認した。



写真1-3 高松団地調査風景

令和3年度

前年度の調査を受けて古田団地、高松団地の追加調査を実施することとなった。

古田団地 令和3年4月に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和3年10月27日に調査場所と時期を決定した。調査は11月1日と11月16日に行い、さらに詳細な遺跡範囲を明らかにするべく、追加調査を令和4年2月1日～2月2日に行った。12か所の調査を実施し、ほ場整備範囲内における遺跡の広がりを確認し終えたため、古田団地での試掘調査は終了した。

高松団地 令和3年4月に追加調査場所案を中国四国農政局へ提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、現地協議を経て令和3年11月12日に調査場所と時期を決定した。調査は11月17日と令和4年2月3日～2月7日に分けて実施した。その後、さらに遺跡の詳細な広がりを確認するべく追加の調査を3月15日に行った。調査は、前年度未調査地及び追加箇所計13か所で実施し、ほ場整備範囲内における遺跡の広がりを確認し終えたため、高松団地での試掘調査は終了した。

整理作業

整理作業は、平成29年度の試掘調査終了後から開始し、写真や図面等の調査記録類の整理や断面図のデジタルトレースを進めた。遺物は洗浄、接合、注記、台帳作成、実測作業等を継続して実施した。令和4年度は本報告書の発刊にあたり、年度ごとの調査結果を再検討し、各団地の成果を総合的にまとめた。また、遺物は引き続き実測を行い、デジタルトレースを実施、並行して写真を撮影し、本報告書に掲載している。



写真1-4 整理作業風景

第3節 調査の体制

試掘調査及び報告書作成の調査体制は表1-2のとおりである。

表1-2 西条市教育委員会体制一覧

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育長	柳瀬 康治	柳瀬 康治	柳瀬 康治 (～1月) 伊藤 隆志 (1月～)	伊藤 隆志	伊藤 隆志	伊藤 隆志
管理部長 (事務局長)	高橋 俊博	高橋 俊博	高橋 俊博	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦
副部長 (副局長)	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦	高橋 壯典		串部 佳隆
社会教育課長				安倍 和紀	前谷 浩教	前谷 浩教
主 幹			岩崎 晃彦	岩崎 晃彦		
副課長	岩崎 晃彦	岩崎 晃彦	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭
専門員	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭				
歴史文化振興 係長	岩崎 晃彦		伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭
歴史文化振興 担当係長						渡邊 芳貴
担当者	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執(臨時)	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執(臨時)	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	鈴木 圭 岡島 俊也

※令和4年度からは、組織改編に伴う名称変更があり、教育委員会管理部は教育委員会事務局と改め、部長は事務局長、副部長は副局長へと役職名も変更となっている。

なお、試掘調査から報告書作成までの作業は、下記の作業員の参加を得た。(敬称略)

青野 浩三、安部 利子、江原 忠明、越智 啓三、越智 麻由、越智 むつ子、梶川 末勝、
久米 亜美、佐伯 憲一、佐々木 寛、志賀 麻奈美、武田 絵里加、武田 忠義、利根 千代美、
豊田 章、平井 章文、藤井 和代、藤井 春菜、藤田 淑子、榎 重信、渡部 和憲

第2章 調査地の位置と環境

第1節 地理的環境

西条市は、愛媛県東部（東予地方）に位置する。現在の西条市は、平成16年11月に旧西条市・東予市・丹原町・小松町の2市2町が合併し、東に新居浜市、北西は今治市、南西は東温市、南は久万高原町及び高知県の町と接している。

北東側は瀬戸内海遠浅の登灘に面し、南は西日本最高峰である石鎚山（標高1982m）や瓶ヶ森（標高1897m）、笹ヶ峰（標高1860m）の連なる石鎚山脈、西は東三方ヶ森（標高1233m）、明神ヶ森（標高1217m）等からなる高縄山地に囲まれる。石鎚山脈は、西南日本を内帯と外帯に分ける中央構造線と平行に走る大起伏の壮年山地であり、傾斜が険しい大断層崖とその山地の地滑りによって形成された緩斜面を特徴とする。中央構造線内より北方の内帯側は和泉砂岩、南方の外帯側は結晶片岩で構成されている。一方高縄山地は高縄半島の基部を成し、主に花崗岩で構成されている。なお、中央構造線は丹原町湯谷口に衝上断層（県指定天然記念物）として一部が露出している。

こうした山地から流れる加茂川や中山川、大明神川等によって形成された道前平野は、道後平野に次いで県内第2の面積をもつ。加茂川は石鎚山を水源とし、中流の兎之山付近で大きく蛇行しながら北東方向に流れる。山間から平野に流出する釜之口付近で再び曲流し、北西へと向きを変え登灘に流入する。中山川は、東温市から山間部を曲流した後、丹原町湯谷口で川幅が広がり、南西から北東方向に流れ登灘に流入する。左岸は、下流に向かうにつれ扇状地、氾濫源、三角州へと変わる沖積平野が形成され、右岸は河岸段丘が発達している。大明神川は、東三方ヶ森から道前平野の北部を西から東に流れ登灘に流入する。暴れ川であった大明神川は、強い運搬作用により上流域の花崗岩系の土砂を絶えず下流へと供給しており、下流域には多量の土砂が堆積した扇状地が広範囲に広がる。上記の河川が登灘に流入する付近一帯は、江戸時代以降に干拓された農業用干拓地と、近年になって造成された工業用埋立地が広がっている。

今回報告する遺跡は、大きくは西条市西部の中山川以北に所在する。中山川左岸には、高位扇状地上に星野遺跡・松の木遺跡・徳田中学校Ⅰ遺跡・徳田中学校Ⅱ遺跡・古田明堂古墳が立地する。その下流の低位扇状地上にはすくも山古墳・高松大塚遺跡が立地し、周辺には高松川等の小河川が東流する。大明神川右岸には、高位扇状地上に北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡・南竹ノ下遺跡が立地する。

第2節 歴史的環境

市内で現在確認している包蔵地は、569か所である。これらの包蔵地の時代は旧石器～近世までと幅広く、遺跡の内容が具体的に判明しているものは限られている。そこで本節では、本書掲載遺跡が集中する中山川以北の遺跡で、発掘調査により具体的に内容が判明した遺跡を対象とし歴史的環境を説明する。なお、発掘調査の頻度が多い中山川以南の一部も対象とする。

また、近年西条市では、民間開発や公共事業等に伴う小規模な発掘調査や工事立会を実施している。本書をとおして一部紹介しておきたい。

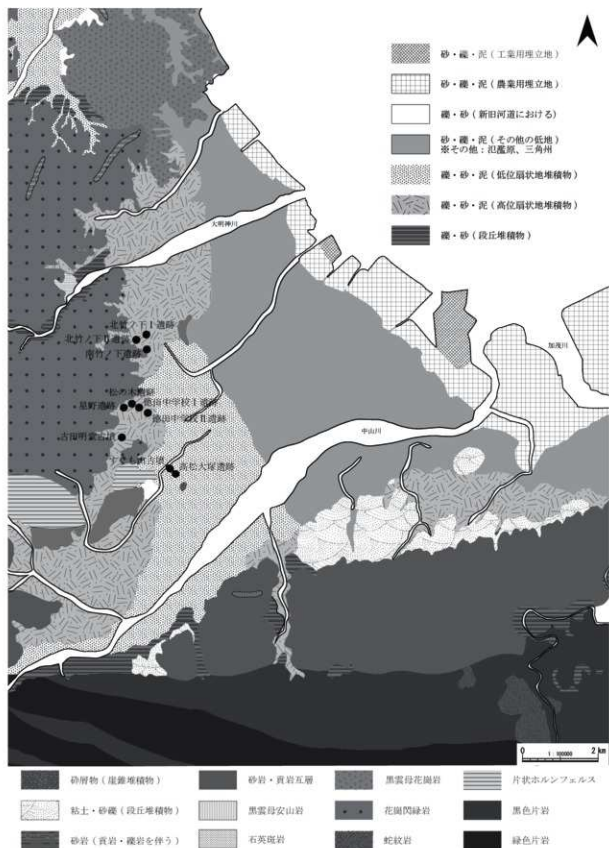


図 2-1 表層地質図



図2-2 主要道跡分布図

西条市都市計画図を基に作成

旧石器時代 旧石器時代を確認している遺跡は数少ない。中山川左岸では宝ヶ口Ⅰ遺跡で角錐状石器や石核が出土しており、中山川右岸では安養寺遺跡や明穂Ⅰ東岡東遺跡、明穂中ノ岡Ⅲ遺跡、妙口遺跡で石器が出土している程度である。

縄文時代 草創期の遺跡は中山川以北では現在確認されておらず、中山川以南の仏心寺遺跡や安養寺遺跡で有舌尖頭器の確認例が報告されている。早期では大明神川左岸の福成寺遺跡(31)で遺構が確認され、近年の調査で北竹ノ下Ⅱ遺跡(2)から押型文土器がまとまって出土している。前期の遺跡は中山川左岸では確認されておらず、中期に至っても星野遺跡(4)で土坑が検出されているのみで不明瞭である。中期から後期初頭では、道場遺跡(51)で溝や土坑を確認した。後期になると遺跡数が増加し、大明神川左岸の成福寺Ⅶ遺跡(22)、松木池遺跡(26)、長瀬Ⅰ遺跡(28)、福成寺遺跡(31)、且之上遺跡(32)、大明神川右岸の東予西中学校遺跡(33)等で遺構・遺物が確認されている。中山川右岸の小松川藤木遺跡(57)では堅穴建物や土坑が検出され、市内では数少ない定住痕跡が残されていた。また、出土遺物は当地域における縄文後期土器編年の指標となっている。晩期では福成寺遺跡(31)や且之上遺跡(34)で遺構・遺物が確認されている。

弥生時代 集落跡では、前期には大明神川左岸の丘陵上に立地する成福寺Ⅶ遺跡(22)で磨製石剣が出土したほか、且之上遺跡(32)では前期～中期にかけての堅穴建物が検出されている。中期では、中山川左岸で、搬入土器、模倣土器、武器形石剣等が出土し、溝で区画された区画域やその周辺に広がる祭祀域、居住域の成り立ちが判明した久枝Ⅱ遺跡(44)を中心に、久枝遺跡(43)、順連寺泉遺跡(45)、順連寺元泉遺跡(46)、順連寺建ヶ内遺跡(47)が一連の集落として展開する。北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡(1・2)、北谷山遺跡(38)では、中期後半～後期頃の堅穴建物等が検出され、新池遺跡(35)、小池遺跡(36)もほぼ同時期の遺構を検出した。なかでも小池遺跡(36)では多量の木製品のほかに、小型内行花文鏡が出土した。中山川右岸の道場遺跡(51)では、後期頃の堅穴建物が検出され、右岸域で初めて後期集落が確認された。後期～古墳時代初頭にかけては、星野遺跡(4)で堅穴建物等が検出されている。近年の調査で後期～終末期頃にかけては、東予西中学校遺跡(33)や新市遺跡(34)で遺構や遺物を確認している。

弥生時代の墳墓は、且之上遺跡(34)で前期末～中期後半頃の土坑墓、耳金城(50)で中期～後期の土坑墓と甕・壺棺墓、後期～古墳初頭では星野遺跡(4)で土坑墓や壺棺墓、近年の調査では北竹ノ下Ⅱ遺跡(2)で後期頃の壺棺墓が見つかった。

古墳時代 古墳の調査例は少ない。初頭頃では、成福寺3・4号墳(23)や中山川右岸に所在する松ノ元・大久保古墳群と呼称される大久保1号墳、松ノ元遺跡土器館墓がある。前期では永納山東Ⅰ遺跡(19)で土坑墓や石櫛が確認されている。中期では、出土遺物から二番山古墳(37)が代表例となろう。後期には丘陵頂部にお筆山1・2号墳(49)が、丘陵沿いに天神東の谷古墳群(市指定史跡、27)等、群集墳が数多く築造される。一方、平野部にも群集墳が築造されることがわかりつつあり、福成寺遺跡(31)では2基の古墳が確認されている。

集落跡では、前期には本郷Ⅰ遺跡(41)で堅穴建物が検出されている。中期には久枝遺跡(43)の流路から中期土器が出土している。後期では長瀬Ⅰ・Ⅱ遺跡(28・29)で堅穴建物が多数検出されており、鉄製品や鉄滓が多量に出土していることから、鉄生産にかかわる大規模な集落が想定されている。本郷Ⅰ遺跡(41)では小規模な調査区ながら後期の遺構が確認されており、北東

に位置する貝田庵寺跡(40)では6世紀後半～7世紀にかけての遺構と遺物が確認されている。

また、北竹ノ下Ⅰ遺跡(1)では、市内初となる水田跡が検出されている。

古代 中山川左岸は『地名抄』によると周敷・桑村の2郡が置かれた。久枝Ⅱ遺跡(44)では遺構の配置や出土遺物から周敷郡衙の可能性が推定され、その南側にある幸の本遺跡(16)では掘立柱建物や自然流路が検出され、自然流路から円面硯・転用硯、赤色塗彩土師器等が出土し、周辺に官衙関連遺跡もしくはそれに相当する階層の居宅の存在が推定されている。また、近接する本郷Ⅴ遺跡(42)では明確な遺構が検出されていないが、円面硯のほか、中世の井戸から赤色塗彩土師器がまとまって出土しており、周辺に古代の遺構が広がる可能性が想定される。近年の調査では、北竹ノ下Ⅱ遺跡(2)から7世紀後半～8世紀の火葬墓が検出されている。

大明神川左岸では、県内唯一の古代山城永納山城跡(国指定史跡、18)があり、近年の調査で多様な城壁構造をもつことが指摘されているほか、長網Ⅰ・Ⅱ遺跡(28・29)では瓦がまとまって出土し、掘立柱建物や大溝が検出されている。その西側に位置する実報寺高志田遺跡(30)では掘立柱建物や土坑が検出され、古代の遺跡が大きく広がる。

中山川右岸では、8～9世紀代の遺構が道場遺跡(51)、松ノ丁遺跡(52)、大開遺跡(54)、大久保・松ノ元遺跡(55)等で確認されている。また法安寺跡(国指定史跡、53)では、史跡指定地外の調査で7世紀中～後半頃の掘立柱建物や8世紀代の土坑が検出されている。土師器甕と和同開珎が数枚(現在は8枚確認、市指定考古資料)出土した柏木古墓(56)もある。

中世 久枝遺跡(43)、順連寺泉遺跡(45)、順連寺元泉遺跡(46)、順連寺建々内遺跡(47)で方形区画溝を伴う集落跡が推定されているほか、本郷Ⅴ遺跡(42)では、13世紀代前後の石組井戸や15世紀代の大溝が検出され、滑石製石鍋等も出土している。星野遺跡(4)では、掘立柱建物や区画溝が、宮ノ後遺跡(39)では溝や土坑が検出されている。北竹ノ下Ⅰ遺跡(1)では、井戸から龍泉青磁筆架が国内で初めて出土し、識字層の存在が想定されている。また、近年の調査では、紫宸殿遺跡(12)から溝のほかに木棺で埋葬された16世紀の中世墓が検出され、大明神川左岸の楠Ⅳ・Ⅴ遺跡(24・25)では、柱穴・溝・土坑が検出されている。

なお、高麗山地には数多くの城館が分布調査で確認されている。

表2-1 中山川以北における近年の発掘調査一覧(西条市実施分)

調査年	遺跡名	時期	主な検出遺構	主な出土遺物
2008	本郷Ⅴ遺跡	古代・中世	溝・井戸	土師器・須恵器・瓦器・石製品・銭貨
2009	本郷Ⅰ遺跡	古墳後期	柱穴・溝	土師器・須恵器
2012	本郷Ⅰ遺跡	古墳後期	柱穴	土師器・須恵器
2017	本郷Ⅴ遺跡	中世・近世	柱穴・溝	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・瓦・陶磁器・鉄製品
2017	東予西中学校遺跡	縄文後期・弥生終末	柱穴・土坑	縄文土器・弥生土器・須恵器・土製品
2017 ～ 2018	楠Ⅳ遺跡 楠Ⅴ遺跡	中世	柱穴・溝・土坑	土師器・須恵器
2018	新市遺跡	弥生後期	土坑	弥生土器・土師器・須恵器
2019	宮ノ後遺跡	中世	溝・土坑	土師器・須恵器・瓦器
	紫宸殿遺跡	中世	溝・土坑・墓	土師器・須恵器・瓦器・木製品
2020 ～ 2021	北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡	縄文・弥生・古代・中世	柱穴・土坑・建物・火葬墓	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・石器・土製品・石製品・鉄製品

※現在整理中であり、詳細は変更する可能性がある。

近世 西条市には西条藩・小松藩が置かれ、西条藩陣屋跡では土坑・柱穴・井戸等が検出されている。中山川左岸で近世の遺跡はほとんどわからない。唯一、本郷V遺跡(42)で溝が検出され、小型埴輪や鉄滓、羽瀝口等が出土し、周辺に鍛冶屋が存在したことが推定されている。

<参考文献>

- 石貫弘泰編 2014『西条藩陣屋跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第185集、(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 伊藤隆志 1992『第2章律令時代の政治と文化 2節奈良時代』『小松町誌』小松町誌編さん委員会
- 今井信太郎編 1983『実報寺黒岩山道路・広岡北谷山道路調査報告書』東予市教育委員会
- 愛媛県教育委員会 1987『愛媛県中世城館跡一分布調査報告書』
- (公財)愛媛県埋蔵文化財センター 2020『愛比志 2019年度年報』
- 岡島俊也編 2022『道場遺跡・松ノ丁遺跡』西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集、西条市教育委員会
- 久門範政編 1966『西條市誌』西条市
- 経済企画庁編 1967『土地分類基本調査「西条」』
- 西条市教育委員会 2013『西条市の文化財』
- 柴田昌児ほか編 2001『松ノ元遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第90集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌児ほか編 2002『大久保遺跡・大久保1号墳』埋蔵文化財発掘調査報告書第94集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌児ほか編 2002『幸の木遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第102集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌児ほか編 2005『久枝遺跡・久枝Ⅱ遺跡・本郷Ⅰ遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第122集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌児ほか編 2008『大久保遺跡(大久保・竹成地区・E地区)・大開遺跡・松ノ丁遺跡(1次・2次)』埋蔵文化財発掘調査報告書第144集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 十亀幸雄編 1997『法安寺跡遺跡』小松町埋蔵文化財調査報告書1、小松町教育委員会
- 十亀幸雄編 2004『小松川藤木遺跡』小松町埋蔵文化財調査報告書2、小松町教育委員会
- 丹原町誌編さん委員会編 1991『丹原町誌』丹原町
- 多田仁ほか編 1994『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶー丹原町編ー安養寺遺跡・宝ヶ口Ⅰ遺跡、文台城跡、高月遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第47集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 土井光一郎ほか編 2008『永納山東Ⅰ遺跡・永納山東Ⅱ遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第145集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 東予市誌編さん委員会編 1986『東予市誌』東予市
- 中野良一ほか編 2005『長綱Ⅰ遺跡・長綱Ⅱ遺跡・実報寺高志田遺跡・福成寺遺跡・旦之上遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第118集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 長井数秋編 1999『新池遺跡・小池遺跡』東予市教育委員会
- 長井数秋編 2001『星野遺跡Ⅰ区発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第1集、丹原町教育委員会
- 長井数秋編 2002『願連寺泉遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第2集、丹原町教育委員会
- 長井数秋編 2003『星野遺跡Ⅱ〜Ⅸ区埋蔵文化財発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第3集、丹原町教育委員会
- 西川真美ほか編 2004『久枝Ⅱ遺跡2次・本郷Ⅰ遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第116集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 西川真美ほか編 2005『願連寺泉遺跡2次・願連寺元泉遺跡・願連寺建ヶ内遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第119集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 松村さくらほか編 2007『世田山4号墳・成福寺Ⅶ遺跡・成福寺3・4号墳・松木池遺跡・長綱Ⅰ遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第140集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 三好一史ほか編 2004『大開遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第117集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 目見田周治ほか編 2001『貝田庵寺跡』東予市教育委員会
- 渡邊芳貴編 2018『史跡永納山城跡Ⅲ』西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集、西条市教育委員会

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

調査対象地は広範囲にわたり、高低差の著しい丘陵斜面部に位置する団地、平野を形成した河川に近接する団地等、現地の状況は多様である。したがって遺跡の存否を確認するためには地形に応じて柔軟にトレンチを設定し、調査を行うことが望ましかった。しかし、対象地の大半は現在も水田として利用されているため、調査後の営農に支障をきたすことのないようにトレンチの方向や規模、掘削深度等には様々な条件があった。基本的にトレンチは農耕車両が進む方向に直交して長軸をとることとし、規模は1×2mとした。ただし、丘陵斜面上の調査で田面成形時の切土・盛土が想定される、または古墳の周溝が想定される場合は、中国四国農政局と協議の上、トレンチを拡張している。なお、調査予定地のうち、調査直前では場整備範囲から外れたトレンチや、周辺の調査結果から遺跡が広がらないと事前に判断したトレンチは調査を行っていない。

各トレンチの調査は、バックホウ及び人力で掘削を行い、層の変化に応じて平面・断面を精査し遺構の有無を確認するとともに遺物の取上げを行った。調査の記録は、土層断面の実測及び写真撮影とともに、必要に応じて平面図を作成した。なお、試掘調査の段階では現地に基準点・水準点が落とされていなかったことから、トレンチの設定場所については、それぞれの周辺の目印を基準にエスロン巻き尺で距離を計測し、都市計画図に記録した。また断面図は、基本的に現地表面の高さを0m、縮尺は20分の1で作成した。

なお、調査終了後は、トレンチを埋め戻して原状に復した。特に耕作土より下の土については、後に農耕車両に影響がないよう、ランマで転圧を図りながら慎重に埋め戻しを行った。



写真3-1 トレンチ設置状況



写真3-2 重機による掘削状況



写真3-3 人力による精査状況



写真3-4 埋め戻し（ランマによる転圧）状況

第2節 安用団地

1 団地の概要

安用団地は、西条市の北西部を流れる大明神川の右岸地域、同河川によって形成された扇状地に所在する。当団地には北竹ノ下Ⅰ遺跡、北竹ノ下Ⅱ遺跡、南竹ノ下遺跡と3つの包蔵地が該当する。南竹ノ下遺跡は、今回の試掘調査により新たに発見された遺跡である。遺跡は、平野に向かい西側から八手状に延びる丘陵裾付近に広がり、今回調査した範囲はこれらの丘陵に挟まれた谷の一つから流れる小河川である小島川の両岸に位置する。現地表面の標高は調査地北西端（北竹ノ下Ⅱ遺跡：1tr）付近で標高約50m、北東端（北竹ノ下Ⅰ遺跡：9tr）付近で約24m、南端付近（南竹ノ下遺跡：30-5tr）で約22.7mである。よって、小島川を挟みつつ直線距離が750m離れる1trと30-5trは、約27mの高低差がある。

調査には、遺跡の広がりや事前把握するための試掘調査と、各遺跡の堆積状況を確認するための確認調査がある。なお、トレンチ名については、試掘調査は最初の実施年度を示し、その後にトレンチ番号を記している（例 平成30年度に実施した1トレンチ：30-1tr、令和2年度に実施した1トレンチ：2-1tr）。一方、確認調査はトレンチ番号のみを標記している。

試掘調査

調査期間：平成30年度 11月5日～11月8日、1月15日～1月16日

令和2年度 4月30日

調査箇所数：19か所

確認調査

調査期間：令和2年度 2月16日～2月24日

調査箇所数：10か所

2 層序と調査成果概要

基本層序と調査成果の概要は試掘調査、確認調査の順に、まとめて報告する。

(1) 試掘調査（図3-2・3、写真図版1～3）

調査したトレンチ：30-1tr～30-17tr、2-1tr、2-2tr

遺跡の広がるトレンチ：30-1tr・30-14tr・30-15tr・30-16tr

1層は、現代の畑や水田等の耕作土または表土である。

1層の下には、現代の床土や近現代の旧耕作土及び旧床土、客土が堆積する。床土等の下層には、小島川等の氾濫に起因する粗砂や細砂、またはそれらが混じるシルトを主体とした河川堆積物が広がる。特に30-3tr・30-4tr・30-5trでは、上記土砂による互層堆積が確認できる。

旧床土直下の30-16tr 5層と河川堆積直下の30-1tr 8層は、黒色の細砂または粗砂混じりシルトの堆積で遺物を包含する。遺物包含層の層厚は約8～36cm以上で、弥生土器がまとまって出土している。また、30-14tr 4層と30-15tr 7層は遺物が出土していないものの、30-1trと30-16trに近接し、遺物が出土した30-16tr 5層に色調と土質が似る。よって、30-14tr 4層と30-15tr 7層も遺物包含層と判断し、結果として遺物包含層は各トレンチで1層検出したこととなる。遺構については、全てのトレンチで確認していない。



図 3-1 安用団地トレンチ位置図



16

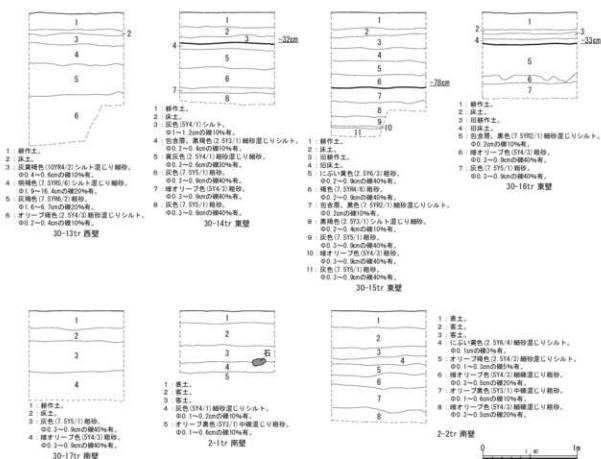


図3-3 安用団地試掘調査 土層断面図2

なお、耕作土や河川堆積からは、摩耗した弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

(2) 確認調査 (図3-4・5、写真図版3・4)

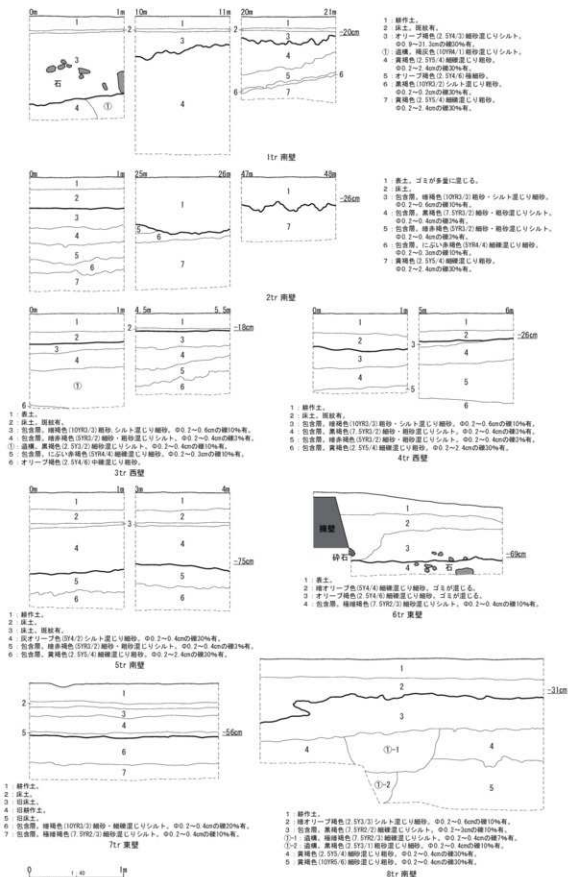
1～5trは北竹ノ下Ⅱ遺跡、6～9trは北竹ノ下Ⅰ遺跡、10trは南竹ノ下遺跡の範囲内に設定した。遺跡の広がり、過去の試掘調査結果と同じく、全てのトレンチで確認した。

1層は表土や耕作土であり、その下には床土や掘乱、10trでは河川堆積土を確認した。

その下層からは、遺構や遺物包含層を検出した。1trでは、4層上面で遺構(①層)を確認した。本トレンチのみ遺構検出面より上層では、遺物包含層を確認していない。遺構は、平面形状が直径70cmの円形で、深さは24cm以上である。遺構からは、中世頃の土師器が出土した。

2tr～10trでは、遺物包含層を検出した。2trでは3～6層の計4層の遺物包含層を確認した。層厚は3層で約23cm、4・5層ともに約20cm、6層で約15cmである。ただし、トレンチの西側では遺物包含層は検出できなかった。これは、トレンチの中央から西側が掘乱を受けていることに加え、2trが西から東に下る斜面地に位置するため、田面成形時に標高の高い西側の遺物包含層が削平された可能性が高い。3～5層からは弥生土器が、5・6層からは縄文土器・弥生土器が出土した。

3trは、3～5層の計3層の遺物包含層を検出した。層厚は3・5層ともに約16cm、4層で



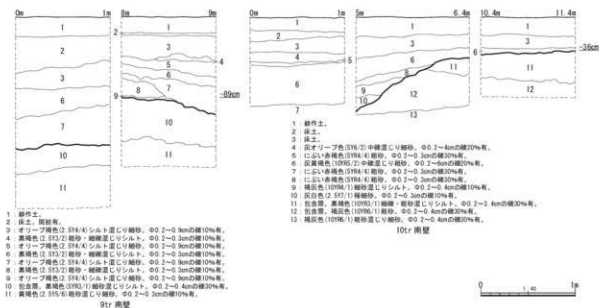


図3-5 安用団地確認調査 土層断面図2

約24cmである。3～5層からは、弥生土器が出土した。また、5層の上面では幅50cmの溝1条と、平面が楕円形状で長軸約100cm以上、短軸50cm以上の土坑1基（①層）を検出した。

4trは、3～6層の計4層の遺物包含層を検出した。層厚は、3・4層ともに約22cm、5層は約46cm、6層は未調査のため不明である。弥生土器が、それぞれの層から出土した。

5trは、5・6層の計2層の遺物包含層を検出した。層厚は5層で約22cm、6層は26cm以上である。5層からは弥生土器が、6層からは縄文土器が出土した。

6trは4層のみ遺物包含層であり、層厚は18cm以上である。4層からは、弥生土器や土師器が出土した。

7trは、6・7層の計2層の遺物包含層を検出した。層厚は6層で約28cm、7層で18cm以上である。6・7層からは弥生土器や土師器、瓦器が出土した。

8trは3層のみ遺物包含層であり、層厚約37cmである。3層からは、弥生土器が出土した。また、4層の上面では平面が直径102cmの円形状で、深さは72cm以上の土坑（①-1・①-2層）を検出した。①-1層と①-2層は同一の遺構と判断したが、①-2層は①-1層に切られた別の遺構の可能性も考えられる。①-1層からは、弥生土器が出土した。

9trは10層のみ遺物包含層であり、層厚約38cmである。10層からは、弥生土器が出土した。

10trは11・12層の計2層の遺物包含層を検出した。層厚は11層で約34cm、12層で約48cmである。11・12層からは、弥生土器が出土した。

確認調査の調査深度は、ほぼ整備工事の影響を受ける深さまでであった。そのため、調査が遺物包含層の途中までとなった4～7trでは、さらに下層に遺物包含層や遺構が広がる可能性がある。

なお、旧耕作土からは、弥生土器や土師器が出土した。

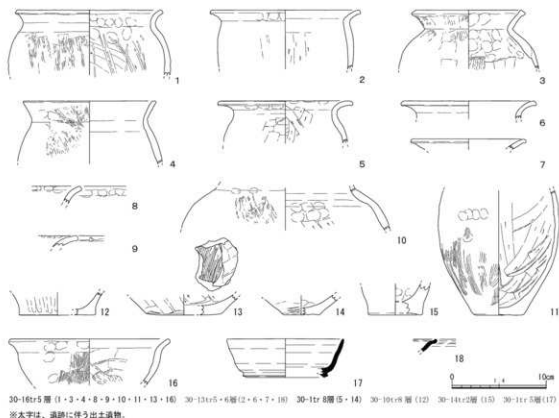


図3-6 安用団地試掘調査 出土遺物

3 遺物

(1) 試掘調査出土遺物 (図3-6、写真図版4・5)

1～16は弥生土器で、時期はいずれも後期頃と考えられる。1～10は甕である。1は胴部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反し端部に面をなす。胴部内面にミガキ、外面は縦方向のハケを施す。2は口縁部がわずかに外反し、端部は面をなす。内面にケズリ、外面はハケを施す。3は胴部が内湾しながら立ち上がり、頸部は「く」字形に屈曲する。口縁端部はわずかに肥厚し面をなす。内外面ともに縦方向のハケを施す。4は頸部が「く」字形に屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。外面は縦方向のハケを施す。5は口縁部が強く屈曲し、端部は外反し丸く収める。胴部内面にケズリを施す。6は口縁部が強く外反し、端部は下位が肥厚し面をなす。7は口縁部が直線的で、端部は下位が肥厚する。8・9は口縁部が外反し、端部に面をなす。10は外面に縦方向のハケを施す。

11～15は、甕または壺の底部である。11～13は底部が平底で、11は胴部まで残り内面にケズリ、外面に縦方向のハケを施す。12は胴部が外反して立ち上がる。外面にミガキを施す。13は器壁が厚く、胴部は直線的に外上方へのびる。14・15は底部が上げ底で、14は胴部が外上方へ直線的に立ち上がり、外面にタギを施す。15は器壁は厚く、内面にユビオサエを施す。

16は鉢である。胴部は緩やかに内湾し、口縁部は外反し端部は丸く収める。内面は横方向のハケ、外面は縦方向のハケを施す。

17・18は須恵器である。17は坏で、高台は「ハ」字形に踏ん張り内端で接地する。口縁部は

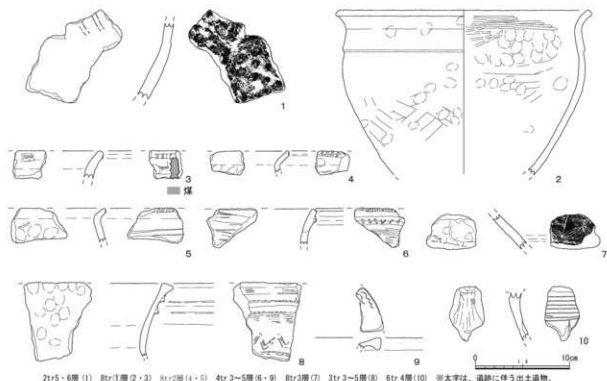


図3-7 安用団地確認調査 出土遺物 1

直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に収める。17の時期は8世紀前半～中頃と考えられる。18は坏または皿で、口縁端部が屈曲し丸く収まる。18の時期は8世紀中頃～後半と考えられる。

(2) 確認調査出土遺物 (図3-7～9、写真図版5・6)

1は縄文土器の深鉢である。1は内面に右下がりの2条の沈線、外面には文様が楕円形である押型文が施される。1の時期は早期と考えられる。

2～29は弥生土器で、2～6は前期の甕である。2は胴部が内湾しながら立ち上がり、胴部外面上位に削り出しによる段を有する。口縁部は外反し、端部は面をなす。内面は口縁部にミガキを施し、ユビオサエが顕著に認められる。外面上方に炭化物が付着する。3～6は口縁部が外反し、端部に刻み目を施す。3は内外面にハケを施し、外面に煤が付着する。5は、肩部外面に2条の沈線を施す。6は、口縁部外面に断面三角形の突帯を貼付け、刻み目を施す。

7は前期、8・9は中期の壺である。7は、胴部外面に木の葉文を施文する。8は口縁部がやや外反しながら立ち上がり、端部は外面が肥厚し面をなす。外面は口縁部上位に2条の貼付突帯が巡り刻み目を施す。口縁下位はハケを施した後に波状文を施文する。9は口縁端部が下垂下し、幅広の端部上面に波状文を施文する。

10は中期の高坏である。脚部外面には、凹線7条が施される。下位に矢羽透かしがあり、残存部では貫通していない。

11～12は後期の壺である。11は複合口縁壺で、頸部が大きく外反して開き、外方に「コ」字形に突出した受け部から二次口縁部が直線的に内傾する。二次口縁部外面には、鋸歯文を施文する。6は広口壺で、口縁部は強く外反し外方へ開く。

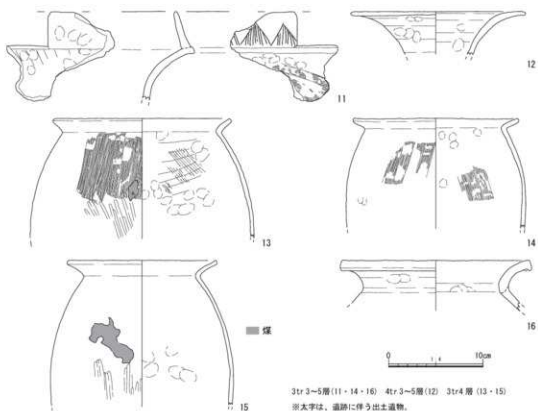


図3-8 安用団地確認調査 出土遺物2

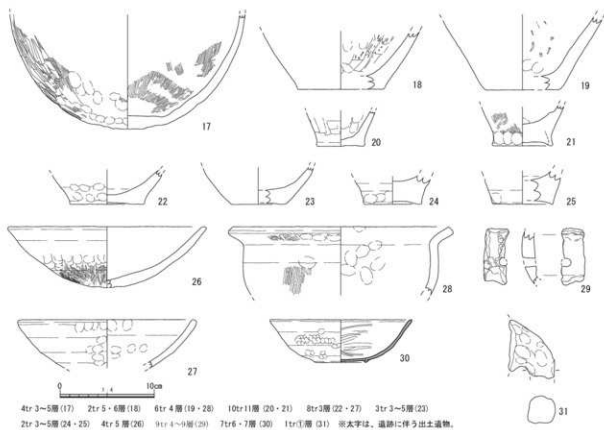


図3-9 安用団地確認調査 出土遺物3

13～16は後期の甕である。13～15は胴部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、頸部は「く」字形に屈曲し外反する。13は内面に縦方向のハケとユビオサエが認められる。外面は胴部上位に縦方向のハケが密に施され、下位はミガキが施される。14は口縁端部が丸く収められ、内外面ともにハケである。15は口縁端部が上方へわずかに肥厚し、外面は縦方向のミガキが施される。16は頸部が「く」字形にゆるやかに屈曲し、口縁端部は下位に肥厚し面をなす。

17～25は、甕や壺、鉢の底部である。17～19は平底、20～25は上げ底である。17は胴部が球形を呈し、内面は縦方向のハケが密に施され、外面はハケのちミガキを施し、ユビオサエも顕著に認められる。18・19は内面に、20は内外面にケズリを施す。21は外面にミガキを施す。22～25は器表面が摩滅しているものの、わずかにユビオサエが外面に残る。

26～28は後期の鉢である。26・27は口縁部に向かってやや内湾する。26は外面にミガキを、27は外面にヨコナデを施す。28は直立する胴部から「く」字形に頸部が屈曲する。口縁端部は面をなす。外面は、縦方向のハケを施す。

29は後期頃の高坏である。脚部に円形透かし孔を設ける。

30は瓦器境である。底部は断面逆三角形の輪高台を貼付けする。内面に平行線状の暗文を施したのちに、胴部に圓線状のミガキを巡らす。和泉型瓦器境で、30の時期は12世紀後半～13世紀初頭と考えられる。

31は、土師器の鍋か釜の脚部である。31の時期は13世紀～16世紀初頭と考えられる。

4 小結

今回、安用団地では追加の試掘調査を実施し、南竹ノ下遺跡という新たな遺跡の広がりを確認することができた。遺跡の時期については、包含層出土遺物から主に弥生時代後期頃であることが明らかとなった。また、包含層上面や下面でも河川堆積が認められることから、遺跡やその周辺は小島川をはじめとした河川の氾濫の影響を多分に受けていることも判明した。遺跡における土地利用の実態等は、今後調査によって明らかになることに期待したい。

また、確認調査によって、発掘調査予定地である北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡、南竹ノ下遺跡の試掘調査より下層の状況を把握することができ、発掘調査を計画する上で貴重な情報を得た。また、過去の試掘調査成果から北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡の時期は、弥生時代中期～後期、古代、中世と幅広いことが判明していたが、今回の調査によって縄文時代早期と弥生時代前期も含まれる可能性が考えられるようになった。南竹ノ下遺跡の時期は、試掘調査と同様の結果を得ることができた。各遺跡における遺物の出土量では、弥生土器が圧倒的に多い。そのため、安用団地に広がる各遺跡は、弥生時代を主体としていた可能性も考えられる。今後実施予定の発掘調査では、遺跡の詳細な時期や性格等を明らかにするためにも、より慎重な調査が求められる。

なお、南竹ノ下遺跡発見の契機となった土器片の採取地は、過去に別の場所から運んできた土砂を耕作土として使用していることを採取地の土地所有者から試掘調査中に確認している。よって、採取された土器片は周辺から運ばれてきた混入遺物である可能性が高い。また、今回採取地自体がほぼ整備範囲外のため試掘調査を実施していないことから、現段階では遺跡が広がる可能性は不明であることも考慮し、採取地は南竹ノ下遺跡の範囲には含めていない。

第3節 古田団地

1 団地の概要

古田団地は、西条市の西部に位置し、新川の支流である西山川と徳能川の両河川によって形成された高位扇状地上に所在する。遺跡は高麗山系の丘陵裾付近に広がり、西から東へ向かって下る傾斜地に立地する。古田団地のほ場整備範囲内には、北西部に星野遺跡・松の木遺跡、中央部北側に徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡、南西部に古田明堂古墳が隣接する。星野遺跡は、西端41trで標高約82m、東端43trで約47mと、直線距離425mの中で35mの標高差がある。松の木遺跡は標高約48m、徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡は北西で標高約31m、南東で約44m、古田明堂古墳は約78mの高さに位置する。なお、調査地の田畑は地図上では1筆でも、実際は複数に分かれている場合もあった。そこで、トレンチ番号は地図上の田畑ごとに割り振り、複数に分かれる場合は枝番（トレンチ番号-枝番 tr 例：1-1tr）を付している。

調査期間	平成29年度	8月23日～8月30日、10月31日～11月20日、1月25日
	平成30年度	8月27日～8月29日、11月20日～11月28日
	令和元年度	11月29日～12月4日、2月12日～2月20日
	令和2年度	10月13日～10月15日
	令和3年度	11月1日、11月16日、2月1日、2月2日

調査箇所数：138か所

2 層序と調査成果概要

調査対象範囲が南北約650m、東西約880mと広大であり、各トレンチ間の詳細な層の対応関係を把握することは非常に困難であった。そのため、調査対象範囲を星野遺跡・松の木遺跡、徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡、古田明堂古墳のまとまりごとに分けて層序と調査成果を概観する。

(1) 星野遺跡・松の木遺跡周辺（図3-11～16、写真図版7～13）

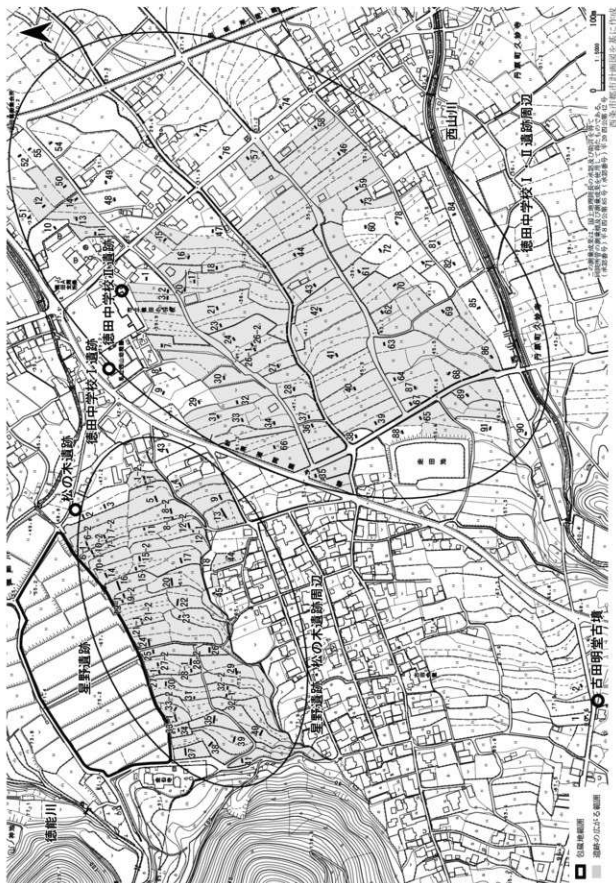
調査したトレンチ：1-1tr～45tr ※36tr、42tr、46trは未調査箇所のため欠番

遺跡が広がるトレンチ：1-1tr～1-2tr、5tr～17tr、19tr～42tr、44tr

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

1層の下には、現代の床土や近現代の旧耕作土及び旧床土、客土が堆積する。

近現代以降の堆積層の下には、複数の遺物包含層が堆積する。遺物包含層は、主にシルトや細砂、粘土で構成される。色調によって、暗赤褐色系（1-1tr 6層、1-2tr 6・7層、9tr 6層、11tr 5層、12-2tr 4層、13tr 6～10層、15-1tr 5層、16tr 5層、17tr 5層、23tr 6層、28-2tr 9層、29tr 7層、33-1tr 4層、33-2tr 3層、37tr 3層、38tr 9層、39tr 6層）、黒褐色系（1-1tr 7層、1-2tr 8・9層、5tr 6層、8-1tr 3層、8-2tr 7層、9tr 7層、20tr 8層、21-2tr 5層、23tr 7層、26tr 6層、34tr 5層、35tr 6層、38tr10層）に分けられる。層厚は、暗赤褐色系で約4～42cm、黒褐色系で約4～30cmである。両層とも地形に沿ってトレンチ全域で確認している。遺物の出土量は少ないが、時期の特定可能な遺物には弥生土器、古代の土師器と須恵器、中世頃の土師器がある。よって、包含層は概ね中世頃までの堆積と考えられる。ただし、1-1tr、1-2tr、9tr、23tr、38trでは、暗赤褐色系の下層に黒褐色系が堆積する。よって、



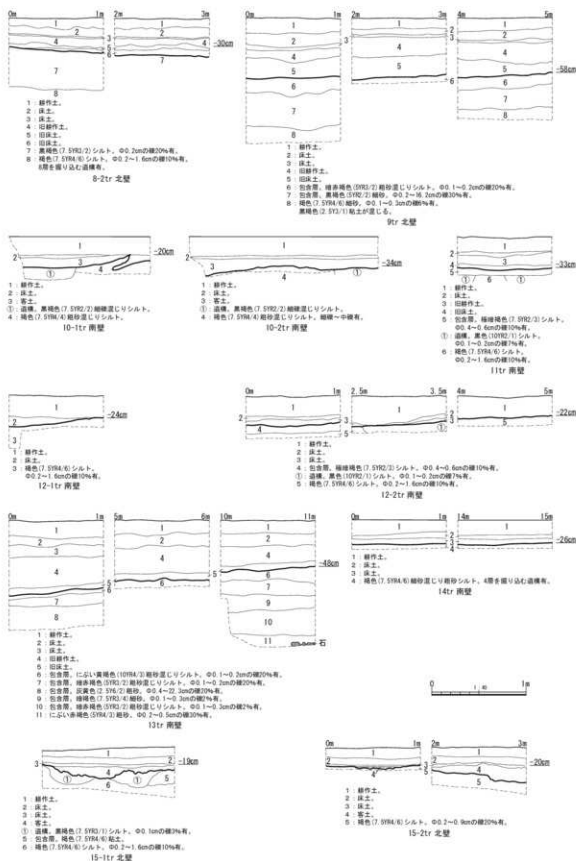


図3-12 星野遺跡・松の木遺跡周辺 土層断面図2

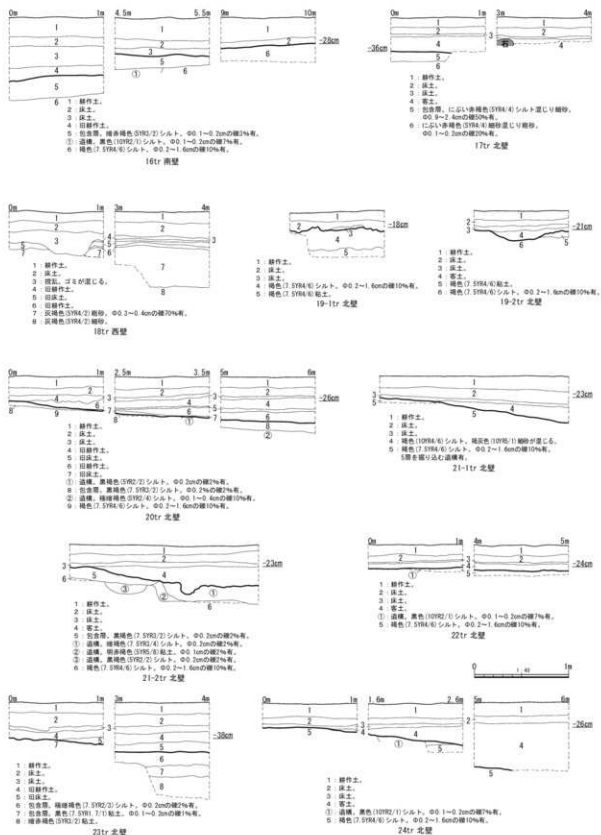


図3-13 星野遺跡・松の木遺跡周辺 土層断面図3

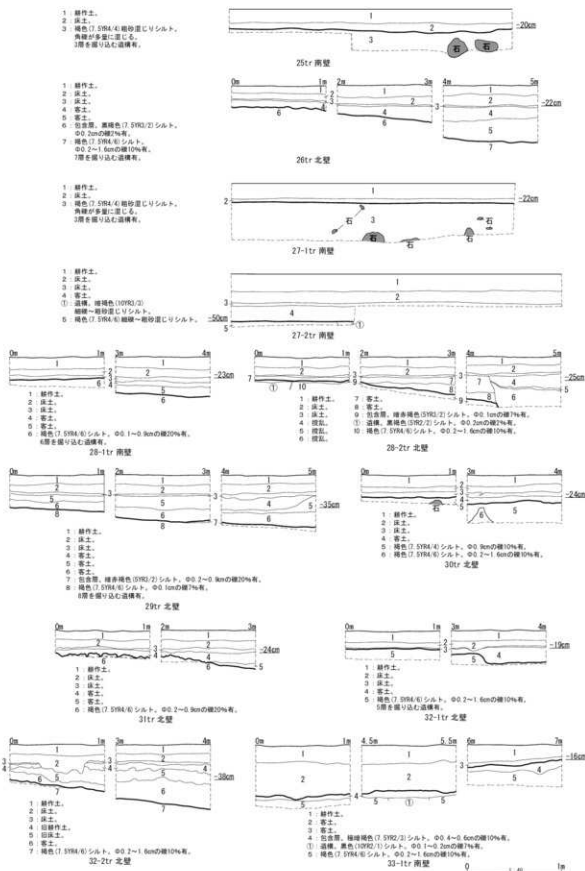


図3-14 星野遺跡・松の木遺跡周辺 土層断面図4

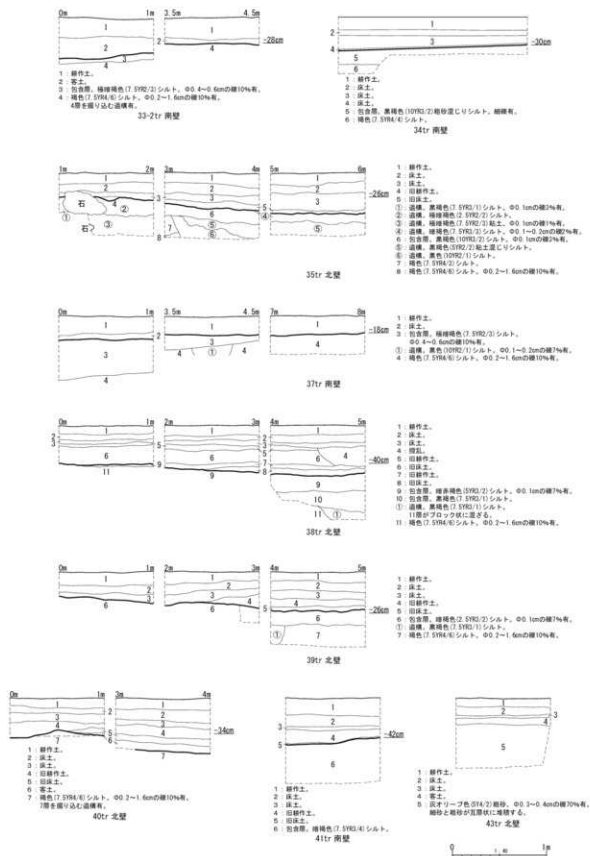


図3-15 星野遺跡・松の木遺跡周辺 土層断面図5

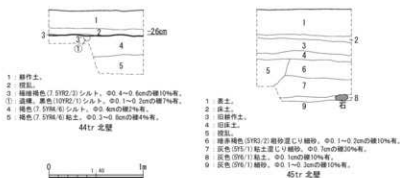


図3-16 星野遺跡・松の木遺跡周辺 土層断面図6

調査地のほぼ全域で検出し、無遺物層であることから、調査地における地山と判断している。

遺物包含層や地山の上面では、遺構を複数のトレンチで検出した。検出した遺構には、柱穴や溝等がある。遺構の時期の特定は出土遺物の少なから難しいが、35tr ⑤・⑥層は弥生時代後期の土器がまとまって出土したため、後期頃の遺構と考えられる。

なお、褐色系シルトである7-2tr 5層、12-1tr 3層、15-2tr 5層、19-1tr 4層、19-2tr 5・6層、27-1tr 3層、30tr 5層、31tr 6層、32-2tr 7層の各上面は、遺物包含層や遺構等を検出していないが、周辺の調査結果から遺跡が広がると判断している。

(2) 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 (図3-17～25、写真図版14～23)

調査したトレンチ：1tr～91tr ※5tr、6tr、19tr、22tr、25tr、45tr、53tr、

56tr、75tr、79tr、80tr、83trは未調査箇所のため欠番

遺跡が広がるトレンチ：2tr～7tr、11tr～28tr、30tr～46tr、50tr、57tr～59tr、

61tr～70tr、73tr、86tr、87tr、89tr

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

1層の下には現代の床土や近現代の旧耕作土及び旧床土、客土が堆積する。

近現代以降の堆積層の下には、複数の遺物包含層が堆積する。遺物包含層は、主にシルトや細砂、粘土で構成される。色調によって、暗褐色系(23tr 4層、27tr 7層、31tr 8層、32tr 7層、33tr 7層、42tr 4・5層、63tr 4層、64tr 4層、86tr 4層、87tr 4層)、黒褐色系(3tr 5層、4tr 5層、11tr 5層、12tr 4層、13tr 8層、14tr 5層、15tr 4層、16tr 4層、17tr 4層、20tr 3層、31tr 7層、33tr 5層、35tr 3層、40tr 4層、42tr 6層、43tr 4層、58tr 5層、66tr 9層、69tr 3層、70tr 5層、73tr 4層)、黒色(2tr 7層、7tr 6層、26-1tr 4層、26-2tr 3層、30tr 7層、35tr 4層、39tr 5層、44tr 3層、46tr 9層、50tr 4層)、暗オリーブ色(21tr 3層、46tr 7層)、明赤褐色(64tr 3層)、黄灰色(65tr 4層)、褐灰色(65tr 5層)に分けられる。層厚は、暗褐色系で約2～48cm、黒褐色系で約2～40cm、黒色で約8～40cm、暗オリーブ色で約12～20cm、明赤褐色で約36cm、黄灰色で約8cm、褐灰色で約28cmである。いずれの層もトレンチ全域に堆積している。遺物の出土量は少ないが、時期の特定可能な遺物には弥生土器、古代の土師器や須恵器、中世頃の土師器等がある。よって、包含層は概ね中世頃までの堆積と考えられる。また、42trで

黒褐色系の方がより古い堆積である可能性が高い。なお、41tr 6層は、遺物は出土していないものの、土色や土質から39tr 6層と対応すると考えられるため、遺物包含層と判断している。

5tr 6層や15-2tr 5層、20tr 9層等はいずれも褐色系シルトの堆積である。本層は調査

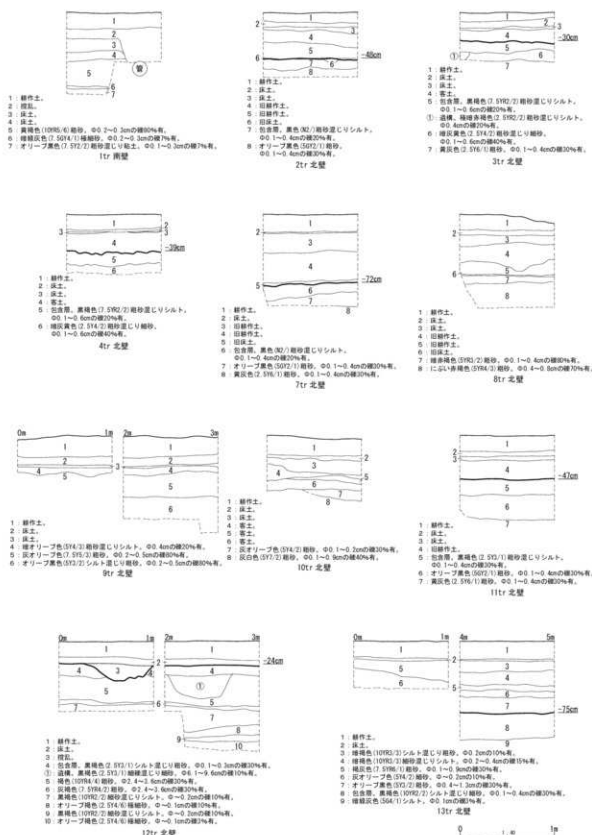


図3-17 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 土層断面図1

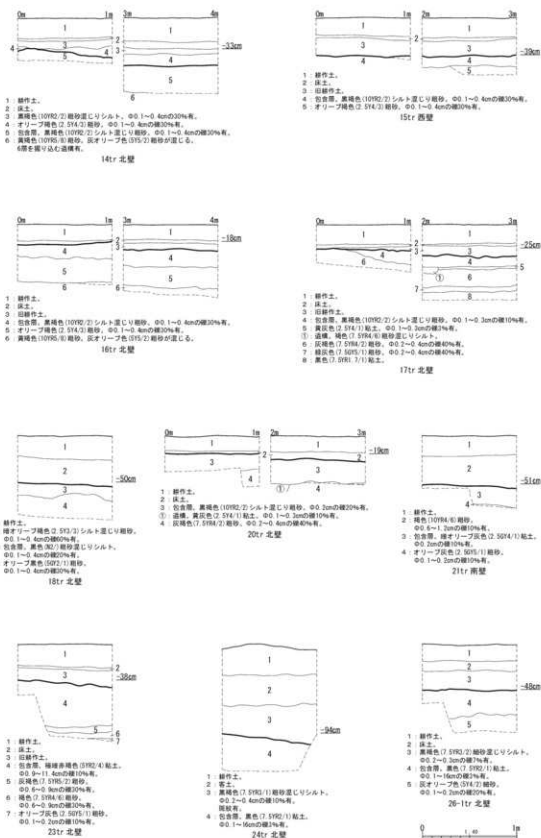


図3-18 徳田中学校 I・II遺跡周辺 土層断面図2

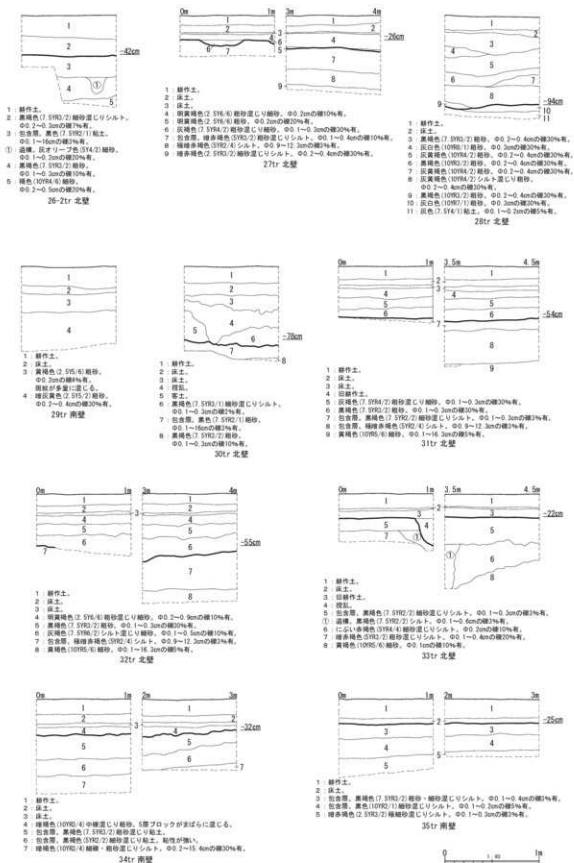


図 3-19 徳田中学校 I・II 退路周辺 土層断面図 3

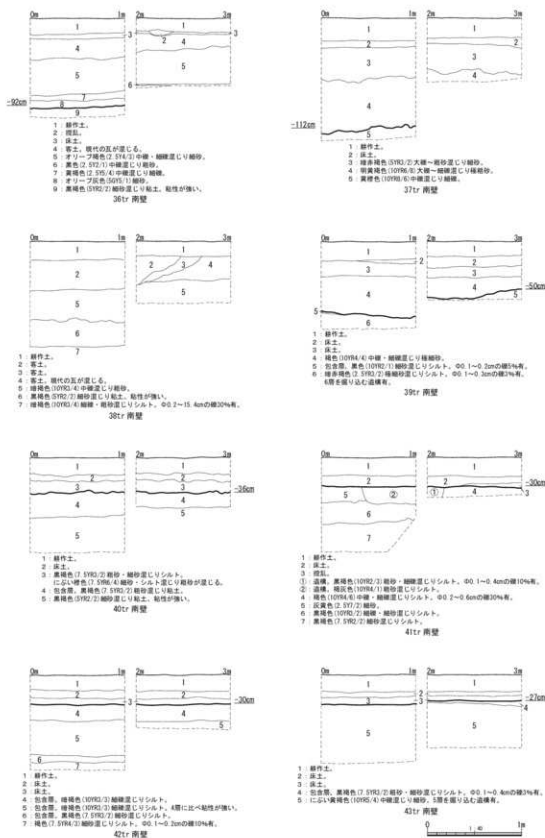
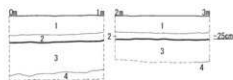
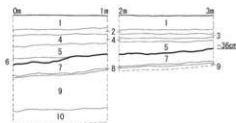


図3-20 徳田中学校 I・II 遺跡周辺 土層断面図4



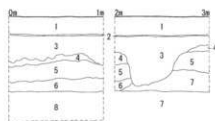
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 赤土層、黄褐色(10YR2/1)細砂土にシルト、 $\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$ の礫5%有。
- 4 黄褐色(10YR2/1)細砂土にシルト、 $\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$ の礫5%有。
- 5 におい黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂。

44tr 南壁



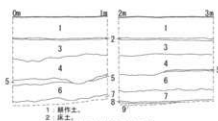
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 旧耕作土。
- 4 旧赤土。
- 5 黄褐色(7.5YR3/4)中礫・細礫土に細砂、 $\phi 0.1 \sim 0.4\text{mm}$ の礫10%有。
- 6 におい黄褐色(10YR5/4)細砂。
- 7 灰色土、暗オリーブ褐色(2.5Y2/2)細礫土にシルト、 $\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$ の礫10%有。
- 8 におい黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂。
- 9 灰色土、黄褐色(10YR2/1)細砂土にシルト。
- 10 におい黄褐色(10YR5/4)細礫土にシルト、 $\phi 0.1 \sim 0.4\text{mm}$ の礫20%有。

46tr 南壁



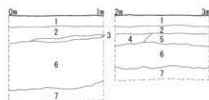
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 灰土、ゴミが混じる。
- 4 黄褐色(10YR2/1)細礫土に細砂。
- 5 黄褐色(10YR2/1)中礫・細礫土にシルト。
- 6 暗オリーブ褐色(2.5Y2/2)中礫・細礫土に細砂。
- 7 黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂、 $\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$ の礫5%有。

47tr 南壁



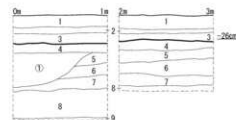
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 灰土。
- 4 オリーブ褐色(2.5Y2/2)細礫土に細砂。
- 5 黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂。
- 6 オリーブ褐色(2.5Y2/2)中礫土に細砂。
- 7 暗オリーブ褐色(2.5Y2/2)中礫土に細砂。
- 8 黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂。

48tr 南壁



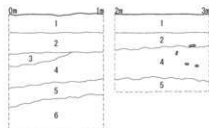
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 オリーブ褐色(10Y2/1)細砂土に細砂。
- 4 黄褐色(10YR2/1)中礫・細礫土に細砂。
- 5 暗オリーブ褐色(2.5Y2/2)中礫土に細砂。
- 6 黄褐色(10YR2/1)中礫・細礫土に細砂。
- 7 オリーブ褐色(2.5Y2/1)中礫・細礫土に細砂。

49tr 南壁



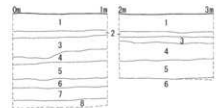
- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 赤土。
- 4 旧赤土、黄褐色(10YR2/1)細礫・細砂土にシルト。
- ① 遺構、におい黄褐色(10YR5/4)細砂。
- 5 灰褐色(7.5YR5/2)細砂土にシルト。
- 6 黄褐色(10YR2/1)細礫・細砂土にシルト。
- 7 灰黄褐色(10YR5/2)中礫土に細砂。
- 8 黄褐色(10YR2/1)細礫・細砂土にシルト、粘性が高い。
- 9 灰黄褐色(10YR5/4)中礫土にシルト、 $\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$ の礫20%有。

50tr 西壁



- 1 耕作土。
- 2 黄褐色(7.5YR5/2)中礫・細礫土に細砂。
- 3 灰黄褐色(10YR5/2)細砂。
- 4 黄褐色(10YR2/1)中礫・細礫土に細砂。
- 5 黄褐色(10YR2/1)中礫・細礫土に細砂。
- 6 黄褐色(10YR5/4)中礫・細礫土に細砂。

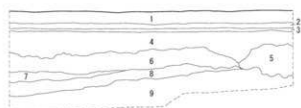
51tr 南壁



- 1 耕作土。
- 2 赤土。
- 3 旧耕作土。
- 4 オリーブ褐色(2.5Y2/2)細礫土に細砂。
- 5 黄褐色(10YR2/1)中礫・シルト土に細砂。
- 6 黄褐色(10YR2/1)中礫・シルト土に細砂。
- 7 褐色(7.5YR5/2)中礫土に細砂。
- 8 黄褐色(10YR5/4)中礫土に細砂。

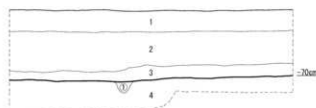
52tr 西壁

図3-21 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 土層断面図5



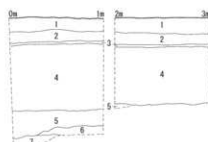
- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 土。
- 4: 灰オリーブ色(S14/2)中硬～細砂混じり砂。φ0.8～2.4mmの粒30%有。
- 5: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じり砂。φ0.3～2.4mmの粒20%有。
- 6: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.4mmの粒30%有。
- 7: 灰オリーブ色(S14/2)中硬。φ0.1～0.3mmの粒20%有。
- 8: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.3mmの粒20%有。
- 9: 灰褐色(S19/2/2)中硬混じり砂。φ0.1～0.4mmの粒5%有。

54tr 南壁



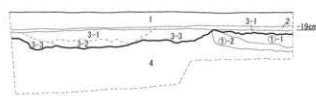
- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 土。
- 4: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じりシルト。褐色(S19/4/2)ブロックを含む。

57tr 南壁



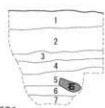
- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 土。
- 4: 灰オリーブ褐色(S13/2)中硬～細砂混じり砂。φ0.2～0.4mmの粒40%有。
- 5: 灰褐色(S17/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.4mmの粒50%有。
- 6: 灰オリーブ褐色(S14/2)中硬混じりシルト。φ0.1～0.2mmの粒20%有。
- 7: 褐色(S19/4/2)シルト。φ0.1mmの粒1%有。

58tr 南壁



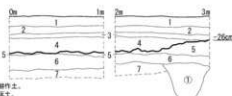
- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3-1: 灰土。硬オリーブ褐色(S13/2)細砂混じりシルト。
- 3-2: 灰土。硬オリーブ褐色(S13/2)細砂混じり砂。
- 3-3: 灰土。にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂。
- 4: 灰褐色(S17/2)細砂混じりシルト。φ0.2mmの粒10%有。
- 5: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じりシルト。φ0.4mmの粒2%有。
- 6: にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂混じり砂。

61tr 南壁



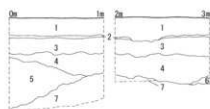
- 1: 耕作土。
- 2: にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂混じりシルト。
- 3: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じり砂。
- 4: にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂。
- 5: 灰褐色(S19/2/2)細砂。
- 6: にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂。
- 7: 灰褐色(S19/2/2)細砂。砂粒による褐色。

55tr 西壁



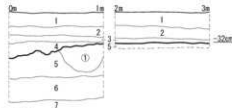
- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 土。
- 4: 灰オリーブ色(S14/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.4mmの粒20%有。
- 5: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じりシルト。φ0.2～0.4mmの粒20%有。
- 6: 灰オリーブ褐色(S14/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.3mmの粒20%有。
- 7: 褐色(S19/4/2)細砂混じりシルト。黄褐色(S19/2/2)ブロックを含む。

59tr 南壁



- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 灰オリーブ色(S13/2)中硬。φ0.2～0.5mmの粒40%有。
- 4: 3・6・7層が混じる。
- 5: 灰褐色(S19/4/2)細砂混じりシルト。φ0.1～0.4mmの粒20%有。
- 6: 灰オリーブ褐色(S19/2)細砂。φ0.2～0.5mmの粒40%有。
- 7: 褐色(S19/4/2)細砂混じり砂。φ0.1～0.4mmの粒20%有。

60tr 南壁



- 1: 耕作土。
- 2: 土。
- 3: 土。
- 4: 灰土。3・4層が混じる。
- 5: 灰褐色(S19/2/2)細砂混じりシルト。φ0.4mmの粒2%有。
- 6: 褐色(S19/4/2)細砂混じりシルト。φ0.1～0.3mmの粒20%有。
- 7: にぶい黄褐色(S19/4/2)細砂混じり砂。

62tr 南壁

図3-22 徳田中学校 I・II 遺跡周辺 土層断面図6

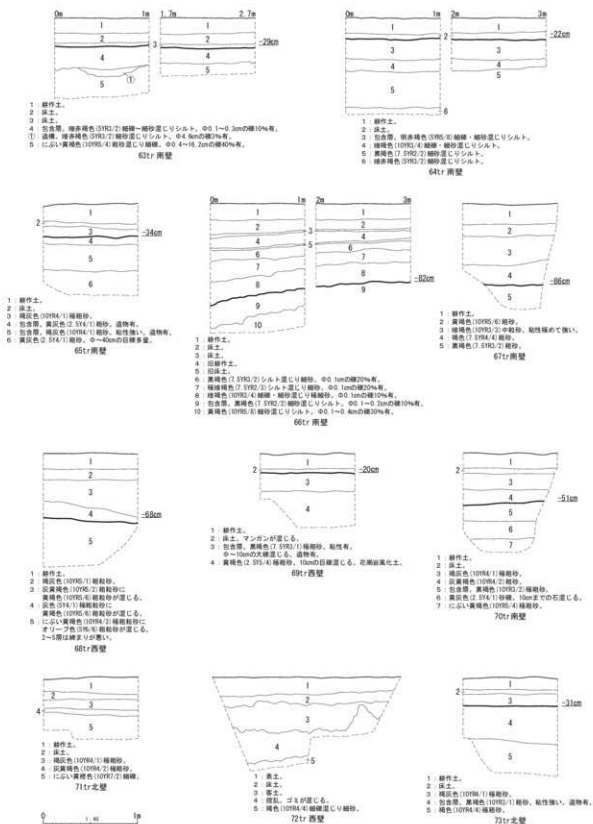


図3-23 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 土層断面図7

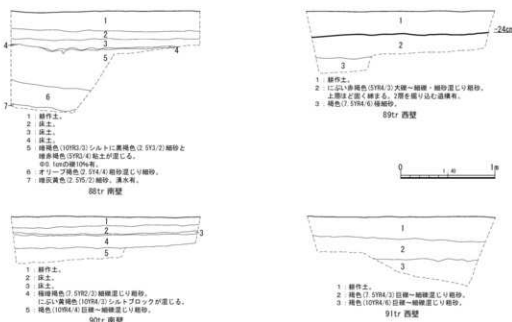


図3-25 徳田中学校 I・II 遺跡周辺 土層断面図 9

は暗褐色系シルトの下層に黒褐色シルトが、35tr では黒褐色シルトの下層に黒色シルトが堆積することを確認した。よって、遺物包含層は、上から順に暗褐色系シルト→黒褐色シルト→黒色シルトと堆積していた可能性が高い。なお、遺物は出土していないが、土色や土質から 18tr 3 層は黒色シルトと、34tr 5・6 層は黒褐色シルトに対応すると考えられ、それぞれ遺物包含層と判断している。

床土や旧耕作土、遺物包含層の下層からは、遺構を複数のトレンチで検出した。検出した遺構には、柱穴等がある。遺構の時期は、出土遺物が少ないため不明である。

なお、21tr 3 層、28tr10 層、36tr 9 層、37tr 5 層、67tr 5 層、68tr 5 層の上面は、遺物包含層や遺構等を検出していないが、周辺の調査結果から遺跡が広がると判断している。

(3) 古田明堂古墳周辺 (図3-26、写真図版 24)

調査したトレンチ：1tr・2tr

遺跡が広がるトレンチ：なし

1 層は現代の畑や水田等の耕作土である。

下層には現代の床土及び攪乱が広がる。攪乱直下では、黒褐色細砂混じりシルト、褐色細砂が堆積する。いずれも無遺物層であり、褐色細砂は両トレンチで広がることから、調査地における地山と判断した。遺物及び遺構が確認できないことから、調査地には遺跡の広がる可能性は低いと考えられる。

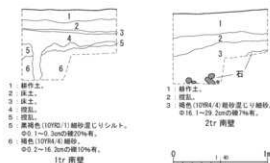
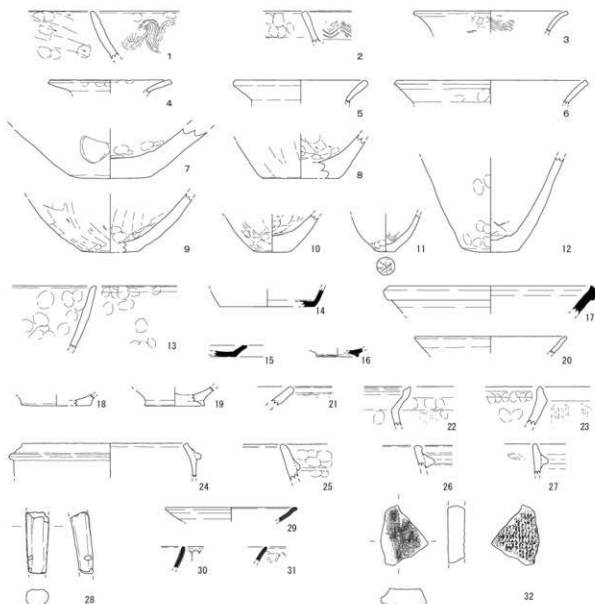


図3-26 古田明堂古墳周辺 土層断面図



35tr①~③層 (1・2・3・5・6・9・12) 35tr④~⑥層 (4・7・10・11・13) 21-1tr 4層 (8) 13tr 6層 (14・18) 13tr 4層 (15)
 13tr 3層 (16・20・23・29・31) 15-1tr 5層 (17) 12-2tr 4層 (19) 33-2tr 3層 (21) 30tr 4・5層 (22・26) 18tr 5層 (24・32)
 30tr 6層 (25) 1-2tr 2層 (27) 37tr 3層 (28) 31tr 4層 (30) ※太字は、通跡に伴う出土遺物。

図3-27 星野遺跡・松の木遺跡周辺 出土遺物

3 遺物

(1) 星野遺跡・松の木遺跡周辺出土遺物 (図3-27、写真図版24・25)

1～13は弥生土器で、時期はいずれも後期頃と考えられる。1・2は複合口縁壺の二次口縁部で、ともに内傾して立ち上がり外面に波状文を巡らす。1の内面にはケズリを施す。

3～6は甕である。3～6は口縁部が外反し、3・4・6の端部は面をなす。5の端部は、わずかに肥厚し丸く収める。7～12は壺や甕、鉢の底部である。7は直線的に立ち上がり、外面の一部が剥離している。8は直線的に外方へ立ち上がり、内面はケズリ、外面は板ナデを施す。9・10は内面にケズリを、外面には板ナデを施す。11は体部が内湾しながら立ち上がり、底部裏に工具痕が認められる。12は底部がやや丸く、体部が直線的に外方へ立ち上がる。

13は鉢である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部はやや尖り気味にわずかに外反する。内外面ともにユビオサエが顕著に認められる。

14～17は須恵器である。14は坏で、口縁部は直線的に立ち上がる。14の時期は不明である。

15は皿で口縁部は外反し、端部内面に段をもつ。15の時期は8世紀頃と考えられる。

16は埴輪または坏で、底端部に断面逆台形上の輪高台を「ハ」字状に貼付けする。16の時期は9世紀と考えられる。

17は鉢で、口縁部は肥厚し端部は面をなす。口縁部の特徴から東播磨系と考えられる。17の時期は12～13世紀頃と考えられる。

18～28は土師器である。18・19は坏や埴輪、皿の底部である。18は円盤状高台をもち、時期は11世紀後半～12世紀前半と考えられる。19は埴輪で、底部は直線的に立ち上がり、底端部に断面逆三角形の輪高台を貼付ける。19の時期は9世紀頃と考えられる。

20・21・22は甕である。20・21・22は口縁部が外反し、21は内外面に横方向のハケを施す。22は頸部が「く」の字状に屈曲し、口縁端部内面は肥厚し段をもつ。時期は20が古代、21・22が中世頃と考えられる。

23は鉢である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部は丸く収める。23の時期は中世頃と考えられる。

24～27は釜である。24～27は口縁部が内湾し、24・26は外面に端部が面をもつ鐙を貼付ける。25・27は、外面に断面三角形の鐙を貼付けする。28は釜か鍋の脚部である。24～28の時期は13世紀後半～16世紀初頭と考えられる。

29は灰軸または緑釉陶器である。口縁部がやや内湾しながら立ち上がり、端部は外反する。軸葉は内外面ともに施される。29の時期は9世紀頃と考えられる。

30・31は龍泉窯系青磁碗である。30は口縁部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、外面は蓮弁文を施す。31は口縁部が直線的に外方へ立ち上がり、外面に蓮弁文を施す。30・31の時期は13世紀頃と考えられる。

32は平瓦である。凸面は縄目、凹面は布目が施される。32の時期は古代頃と考えられる。

23tr 4・5層から出土した鉄製品（写真図版25）は、長さ6.5cm、幅0.8cmの棒状を呈する。紡錘車の軸と考えられるが、詳細は不明である。

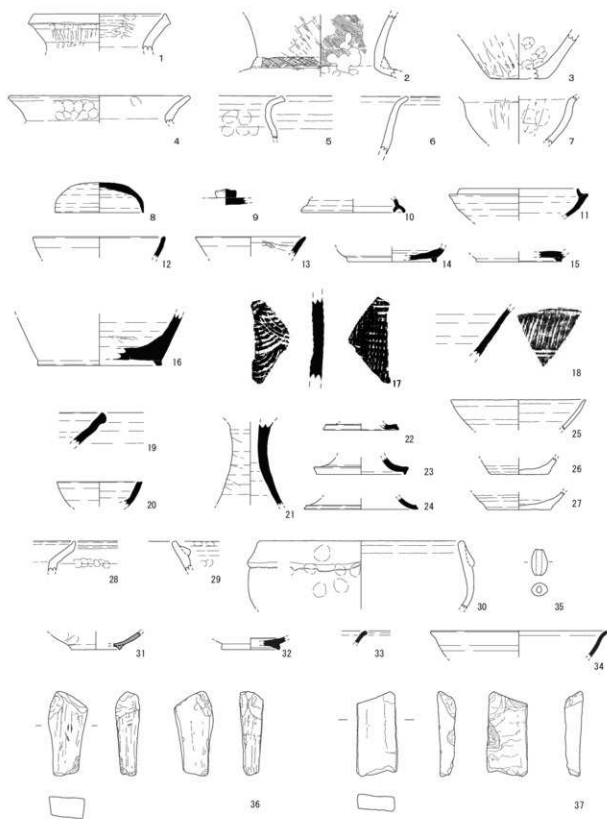
（2）徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺出土遺物（図3-28、写真図版25・26）

1～7は弥生土器で、時期はいずれも後期頃と考えられる。1～2は壺である。1は口縁部が外反し、端部は上方に肥厚し面をなす。外面は縦方向のミガキを施す。2は口縁部が外反し、頸部には突帯を貼付け、斜格子を刻む。内面は横方向のハケを施す。3は壺か甕の底部である。底部は直線的に外方へ立ち上がる。内面はユビオサエが顕著に認められ、外面はヘラケズリを施す。

4・5は甕である。口縁部が大きく外反し、4は端部を丸く収める。5は端部に面をもつ。

6・7は鉢である。6は体部がやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸く収める。7は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。内面はケズリ、外面は板ナデを施す。

8～24は須恵器である。8～10は坏蓋である。8は天井部と口縁部の間に稜は存在せず、な



33tr5層 (1・2・3・4) 39tr5層 (5) 30tr5・6層 (6) 26-2tr3層 (7) 46tr9層 (8・11・14・18・21・25・26)
 4tr5層 (9・10・15・22・23・24) 38tr2層 (12・20) 17tr4層 (13) 7tr4層 (16) 46tr5層 (17) 44tr2層 (19)
 58tr6層 (27・36) 20tr3層 (28) 28tr3層 (29・30) 24tr4層 (31) 32tr5・6層 (32) 30tr4層 (33) 76tr3層 (34)
 58tr5層 (35) 42tr5・6層 (37) ※太字は、遺跡に伴う出土遺物。

図3-28 徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 出土遺物

だらかに立ち上がり口縁端部はやや尖り気味に収める。内外面に回転ナデ、外面天井部の一部に回転ヘラケズリを施す。8の時期は6世紀後半～7世紀前半と考えられる。9は擬宝珠つまみが貼付けられる。9の時期は8世紀前半と考えられる。10は内面のかえりが内傾する。坏の可能性もある。10の時期は7世紀前半～中頃と考えられる。

11～15は坏である。11は口縁部が内傾しながら直線的に立ち上がり、端部はナデにより尖り気味に収める。受部は平坦である。内外面ともに回転ナデを施す。11の時期は6世紀後半と考えられる。12は口縁部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、端部は丸く収める。13は、口縁端部をやや尖り気味に収める。14は、底部に断面逆台形状の輪高台を貼付する。15は底部端に断面逆台形状の輪高台を貼付け、外端で踏ん張る。12～15の時期は古代頃で、14は8世紀後半～9世紀と考えられる。

16は壺である。体部は直線的に立ち上がり、底部は断面逆台形状の輪高台が貼付けされ、「ハ」字状に外へ張り出す。16の時期は、古代頃と考えられる。

17・18は甕である。17は内面に同心円タタキ、外面は格子タタキが施される。18は、外面にヘラ描き斜線を挟んで水平方向の沈線がそれぞれ施される。17・18の時期は古墳時代後期～古代と考えられる。

19・20は鉢である。19は口縁部が直線的に立ち上がり、端部は肥厚しやや丸みをもった面をなす。口縁部の特徴から、東播系と考えられる。19の時期は12～13世紀と考えられる。20は口縁部が内湾しながら立ち上がり、端部は面をなす。20の時期は不明である。

21～24は高坏である。21は内外面に回転ナデを施す。22～24は脚端部である。端部に面をもち、内側で接地する。21～24の時期は7世紀と考えられる。

25～30は土師器である。25～27は坏である。25は口縁部が内湾しながら外方へ立ち上がり、端部は外反しやや尖り気味に収める。26は底部の切り離しが回転ヘラ切りである。27は、底部が円盤高台を呈する。底部の切り離しは回転ヘラ切りの痕跡が認められる。25～27の時期は古代頃と考えられる。

28は鍋である。口縁部は大きく外反し、端部は上方に尖る。28の時期は中世と考えられる。

29・30は釜である。29・30は口縁部が内湾し、端部はやや丸味を帯びる。29は外面に端部が断面三角形状の鐙を、30は外面に端部が丸い鐙を貼付け。29・30の時期は13世紀後半～16世紀初頭頃と考えられる。

31は瓦器である。底部に断面逆三角形状の輪高台を貼付けする。和泉型瓦器で、時期は12世紀中頃～13世紀初めと考えられる。

32は緑釉陶器である。釉調は黄緑色を呈する。底部は削りだし高台で、京都系とみられる。32の時期は古代と考えられる。

33は青磁碗である。釉調は灰オリーブ色を呈する。口縁部は外反し、端部外面はわずかに肥厚し丸く収める。33の時期は13～14世紀初頭前後と考えられる。

34は白磁碗である。釉調は緑灰色である。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は外反する。34の時期は13～14世紀頃と考えられる。

35は土鍾である。管状土鍾で、平面は楕円形である。35の時期は不明である。

36・37は砂岩製の砥石である。37は表、左右面を砥面とし、使用により平坦な面となる。38は表、左右面を砥面とし、使用により左右面は平滑となる。表面は使用により凹む。

4 小結

今回、古田地周りでまとまった試掘調査を、5か年にわたり実施した。調査では、星野遺跡・松の木遺跡周辺で遺物包含層を検出した。遺物包含層には、弥生土器や古代埴、中世埴の土器が含まれる。徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺でも、同時期の遺物包含層を検出した。遺物包含層は星野遺跡・松の木遺跡周辺で最大4層、徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺で最大3層認められ、堆積の下限は出土遺物から中世埴と考えられる。遺構は柱穴や溝を確認し、床土や旧耕作土、遺物包含層の下から検出した。古田明堂古墳周辺では、遺跡の広がりとは確認されなかった。ただし、古田明堂古墳と調査地は道路によって隔たれているため、古墳に伴う遺構は調査地までは広がらず、道路下に残されている可能性もある。

以上のことから、試掘調査であるが故に各トレンチ間の調査結果を結び付けづらいが、古田地周りで弥生時代埴を始めとし、断続しながらも中世まで続く複合遺跡が広範囲に広がる可能性がある。ただし、星野遺跡・松の木遺跡周辺では弥生土器が多く出土し、次いで中世となり、古代埴の土器は少ない。一方、徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡では、中世埴の土器が多く、次いで弥生土器・古代埴の土器となる。両遺跡周辺では、出土遺物の主体となる時期が若干異なっている。そのため、星野遺跡・松の木遺跡周辺と徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺は、それぞれが別の遺跡として広がるかと判断している。

また、星野遺跡では、今回の試掘調査地北側で平成12～13年度に旧丹原町によって発掘調査が行われている。その結果、発掘調査でも今回出土した土器と同世代のものが出土している。発掘調査の結果と、上述の試掘調査成果とでは出土遺物の時期が共通していることから、星野遺跡は既存の遺跡範囲と今回新たに遺跡が広がった範囲が一連の遺跡である可能性が考えられる。また、発掘調査では縄文時代の遺構も見つかっていることから、星野遺跡・松の木遺跡周辺の時期は縄文時代まで遡る可能性もある。

なお、調査では一部のトレンチを除き、広範囲にわたってほ場整備範囲内で遺跡の広がりが確認された。そのため、各遺跡の範囲を見直す必要があり、今後試掘調査の結果から各遺跡の範囲と名称を改める予定である。特に、徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡は、周辺の字名に遺跡名を改めることとしている。これは、遺跡名の由来となった徳田中学校が現存せず、遺跡範囲にあるのは徳田小学校であるため、名前が煩雑となっていること、加えて遺跡が学校範囲を越えて広範囲に広がるためである。

第4節 高松団地

1 団地の概要

高松団地は、西条市の西部に位置し、新川の支流である高松川等によって形成された低位扇状地上に所在する。高松団地のほぼ整備範囲には、すくも山古墳と高松大塚遺跡が隣接する。すくも山古墳と高松大塚遺跡はともに古墳と想定されているが、規模や墳形は不明である。試掘調査は古墳及び周溝等を確認する目的で始めたが、古墳とは別の遺跡の広がりがすくも山古墳周辺で確認されたため、その範囲を確認するため調査を行った。標高は、南西端 50tr で約 26 m、北東端 21tr で約 23 m と西から東にわずかに傾斜する。

調査期間：平成 29 年度 8 月 31 日、11 月 20 日～11 月 21 日、1 月 25 日

平成 30 年度 11 月 29 日～11 月 30 日、1 月 17 日

令和元年度 12 月 5 日～12 月 9 日、3 月 17 日～3 月 18 日

令和 2 年度 10 月 12 日～10 月 13 日、11 月 27 日

令和 3 年度 11 月 17 日、2 月 3 日～2 月 7 日、3 月 15 日

調査箇所数：42 か所

2 層序と調査成果概要

調査対象範囲には、すくも山古墳と高松大塚遺跡の 2 遺跡が隣接する。よって、それぞれの遺跡ごとに層序と調査成果を概観する。

(1) すくも山古墳 (図 3-30～34、写真図版 27～31)

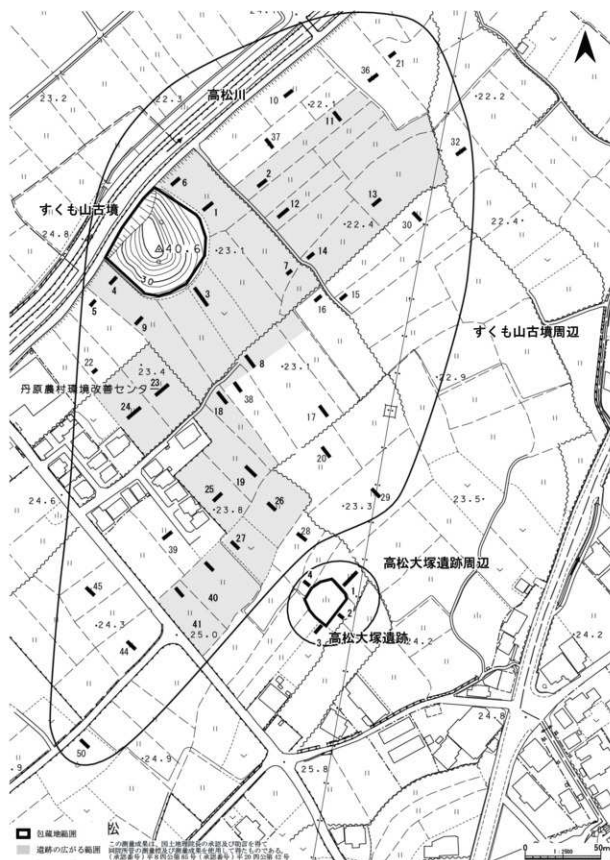
調査したトレンチ：1tr～30tr、32tr、36tr～41tr、44tr、45tr、50tr ※31tr、33tr～35tr、42tr、43tr、46tr～49tr は未調査箇所のため欠番

遺跡が広がるトレンチ：1tr～4tr、6tr～9tr、11tr～14tr、19tr、23tr～27tr、40tr、41tr

1 層は現代の畑や水田等の耕作土である。

1 層の下には、現代の床土や近現代の旧耕作土及び旧床土が堆積する。

近現代以降の堆積層の下には、複数の遺物包含層が堆積する。遺物包含層は、主にシルトや細砂で構成される。色調によって、赤褐色 (1tr13 層)、黒褐色 (1tr15 層、4tr11 層、6tr11 層、24tr 6 層、25tr 6 層、26tr 4 層、27tr 6 層、41tr 8 層)、黄褐色系 (2tr 4 層、3tr 6 層、8tr 5 層、13tr 8 層、14tr 4 層)、黒色 (4tr12 層)、オリーブ褐色 13tr 9 層)、暗褐色 (14tr 5 層) に分けられる。層厚は、暗赤褐色で約 30 cm、黒褐色で約 4～80 cm、黄褐色系で約 8～38 cm、オリーブ褐色で約 36 cm、暗褐色で約 64 cm で、黒色はトレンチの底で検出したため、層厚は不明である。いずれの層ともトレンチの広範囲で確認している。遺物の出土量は少ないが、時期の特定可能な遺物には古墳時代や古代の須恵器、中世頃の土師器等がある。よって、包含層は概ね中世頃までの堆積と考えられる。1tr12 層や 2tr 3 層、6tr 8 層、7tr 3・4 層、9tr11・12 層、19tr 6 層は遺物は出土していないが、土色や土質から 1tr12 層、2tr 3 層、7tr 3・4 層、9tr11 層は 3tr 6 層と、6tr 8 層、9tr12 層は 13tr 9 層と、19tr 6 層は 1tr15 層と対応すると



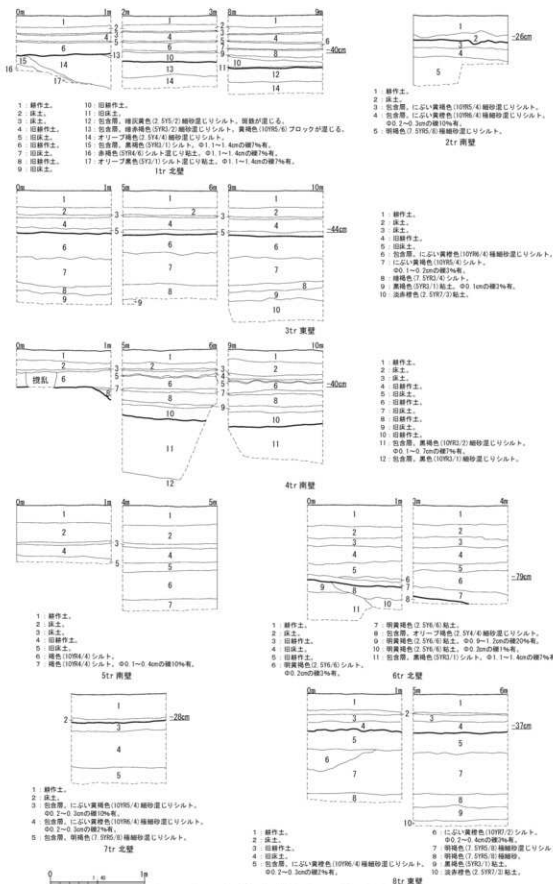


図3-30 すくも山古墳周辺 土層断面図1

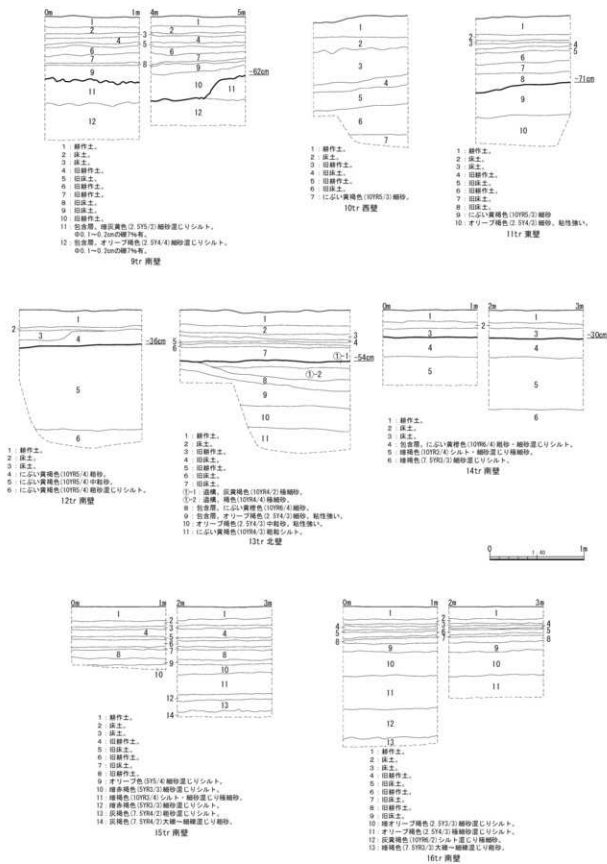


図3-31 すくも山古墳周辺 土層断面図2

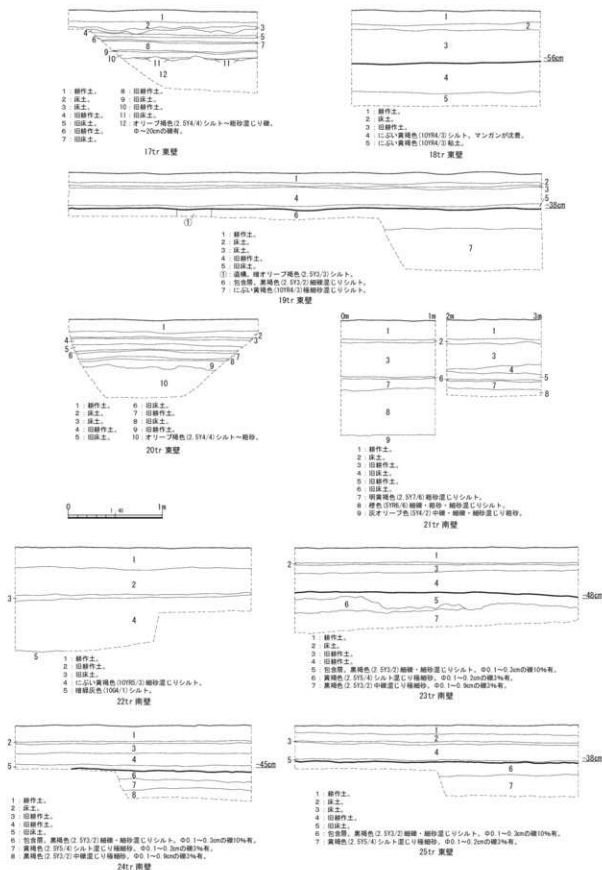


図3-32 すくも山古墳周辺 土層断面図3

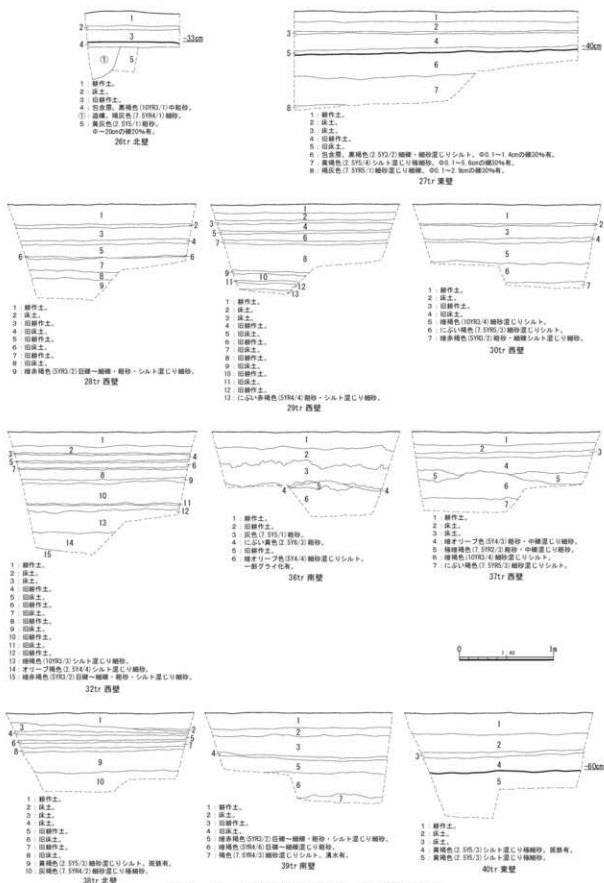


図3-33 すくも山古墳周辺 土層断面図4

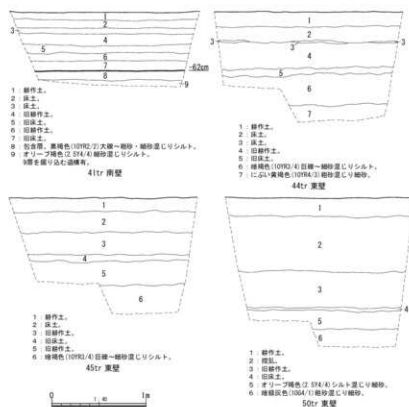


図3-34 すくも山古墳周辺 土層断面図5

層上面で柱穴等を検出した。時期は遺物包含層の上面と下層で分かち、上面は中世以降、下層は中世またはそれ以前と考えられる。また、すくも山古墳東側の1trでは、15層上面が東に落ち込み、その上面には12～14層が堆積する。6trでも9層が東に落ち込み、上面に8層が堆積する。この落ち込みが古墳の周溝とも想定できるが、西側の4trと9tr、南側の3trでは周溝と考えられる遺構は確認できていない。現段階では、1tr12～14層と6tr8層がトレンチ外へと続くこと、また遺物を含むことから、それぞれを遺物包含層と判断しているが、周溝である可能性も残されている。

なお、11tr 9層、12tr 5層、40tr 5層の上面は、遺物包含層や遺構等を検出していないが、周辺の調査結果から遺跡が広がると判断している。

(2) 高松大塚遺跡周辺 (図3-35、写真図版32)

調査したトレンチ: 1tr、4tr ※2tr、3trは未調査箇所

遺跡が広がるトレンチ: なし

1層は現代の耕作土である。下層には現代の床土が広がる。床土直下では、褐色系の粗砂や巨礫～細礫までの礫を含む堆積が続く。円礫が主体である礫層は、高松川の氾濫による堆積と考えられる。いずれも無遺物層であり、遺構も確認できないことから、調査地には遺跡の広がる可能性は低いと考えられる。

考えられ、遺物包含層と判断している。

近現代以降の堆積層または遺物包含層の下層には、細砂や粗砂で構成される堆積を確認した。場所によっては拳大の円礫を含むことから、河川等の氾濫による堆積と考えられる。耕作土や旧耕作土から土師器や須恵器が出土したが、遺物は摩耗したものが多く、これは、上述の氾濫によって運ばれてきたためと考えられる。

遺構は、13tr 8層や19tr 6層の遺物包含層上面や、遺物包含層より下層の26tr 5層上面、41tr 9

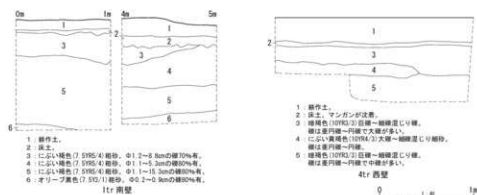


図3-35 高松大塚遺跡周辺 土層断面図

3 遺物 (図3-27、写真図版31)

1～9は須恵器である。1・2は坏である。1は口縁部が若干内傾しながら立ち上がり、端部はナデにより丸く収まる。1・2ともに、外面は回転ナデ・ヘラケズリ、内面は回転ナデが施される。1・2の時期は6世紀前半と考えられる。

3～5は坏である。3・5は口縁部がやや内湾気味に立ち上がり、4はやや外反気味に立ち上がる。5の端部は外反し丸く収まる。3～5の時期は古代と考えられる。

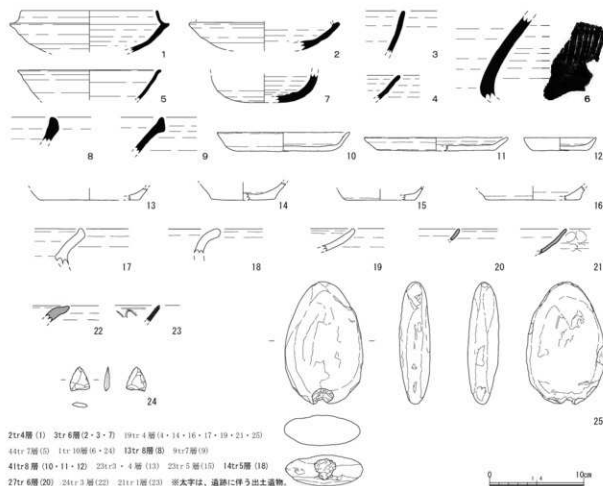


図3-36 すくも山古墳周辺 出土遺物

6は甕である。外面は斜め方向のヘラ描き沈線文が施される。6の時期は古墳時代後期～古代頃と考えられる。

7は甕である。内外面とも回転ナデが施される。7の時期は古墳時代と考えられる。

8・9は鉢で、口縁部の特徴から東播系と考えられる。8は内湾しながら、9は直線的に立ち上がり、端部ともに肥厚する。8・9の時期は13世紀頃と考えられる。

10～19は土師器である。10～12は皿である。口縁部は直線的に外方へ立ち上がり、10・12の端部は尖り気味に、12は端部を丸く収める。11の底部には、ヘラ切りの痕跡が認められる。10・11の時期は古代、12は中世と考えられる。

13～16は坏か皿の底部である。13・14はやや内湾気味に、15・16はやや直線的に立ち上がる。13～16の時期は古代～中世頃と考えられる。

17・18は甕である。17は頸部が「く」字状に屈曲し、口縁端部は上方へ肥厚する。18は口縁部が大きく外反し、端部は丸く収める。17・18の時期は古代～中世頃と考えられる。

19は高坏である。口縁部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、端部は肥厚し丸く収める。内外面に赤色顔料が塗彩されている。19の時期は8～9世紀頃と考えられる。

20・21は瓦器である。20・21は口縁部が緩やかに内湾しながら外方へ立ち上がり、口縁端部は丸く収める。21は和泉型瓦器で、20・21の時期は12世紀後半～13世紀と考えられる。

22は瓦質土器の鍋である。口縁部は外反しながら立ち上がり、口縁端部は尖り気味に収める。22の時期は中世頃と考えられる。

23は龍泉窯系の青磁碗である。口縁外面には、鎬蓮弁が施される。23の時期は13～14世紀頃と考えられる。

24・25は石器である。24は石鎌である。長さは2.55 cm、幅は2.1 cmで平基の無茎鎌である。

25は、扁平かつ楕円形の自然石の1片を打ち欠いている。石錘の可能性もあるが、打ち欠きが片側しかないため、敲石等の可能性もある。25の時期は不明である。

4 小結

今回、すくも山古墳と高松大塚遺跡周辺で、まとまった試掘調査を5か年にかけて実施した。両古墳とも墳丘自体はほぼ塙整備範囲から外れているため、当初は周溝等から古墳の規模や墳形を確認する調査であったが、すくも山古墳から見て北東―南西方向に古墳とは別の遺跡の広がりが見えてきた。遺跡では、中世頃までの遺物を含む遺物包含層を検出した。遺物包含層は、多くて2層の重なりがあることを確認した。遺構は、柱穴等を検出している。古墳に伴う遺構では、すくも山古墳周辺で周溝の可能性を含む堆積も確認しているが、現段階での判断は難しい。遺物は出土総量は少ないものの、時期がわかるものでは、古墳時代や古代～中世にかけての土器が出土した。

また、高松大塚遺跡周辺には、遺跡が広がる可能性が低いことが明らかとなった。遺跡内の古墳と想定されている小塚は未調査ではあるが、古墳であるならば周溝はないものと考えられる。なお、高松大塚遺跡に隣接する28tr・29tr及びその筋上にある40tr・41tr南側の田畑は、北西―南東軸でみると標高が低い場所である。28tr・29trでは、現地表面から28trで80 cm下、

29tr で 88 cm 下で旧耕作土を確認しており、これは 28tr・29tr 付近が現在よりも標高がさらに低かった可能性が考えられる。高松大塚遺跡周辺の 1tr・4tr では、河川氾濫の堆積を確認していることも考慮すれば、28tr・29tr 付近には旧河川があった可能性も考えられる。

＜参考文献＞

今井信太郎編 1983『実報寺黒岩山遺跡・広岡北谷山遺跡調査報告書』東予市教育委員会

古代の土器研究会編 1992『古代の土器 1・都城の土器集成』真陽社

古代の土器研究会編 1993『古代の土器 2・都城の土器集成Ⅱ』真陽社

古代の土器研究会編 1994『古代の土器 3・都城の土器集成Ⅲ』真陽社

柴田昌児 2000『伊予東部地域』『弥生土器の様式と編年』木耳社

鈴木圭編 2020『市内遺跡発掘調査報告書』西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第 5 集、西条市教育委員会

大宰府教育委員会 2000『大宰府桑坊跡 X V 一 陶磁器分類編一』大宰府の文化財第 49 集

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

丹原町誌編さん委員会編 1991『丹原町誌』丹原町

中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

中世土器研究会編 2022『新版 概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

長井敷秋編 2001『星野遺跡 I 区発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集、丹原町教育委員会

長井敷秋編 2003『星野遺跡 II ～IX 区埋蔵文化財発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第 3 集、丹原町教育委員会

表 3-1 遺物観察表

(※): 復元値 【※】: 残存値

遺跡名	図	遺物番号	調査区(tr)	層・遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	底径	器高	
南竹ノ下遺跡	3-6	1	30-16	5	弥生土器	甕	(15.2)	—	【6.9】	口縁～胴上部。
		2	30-13	5・6	弥生土器	甕	(15.4)	—	【6.2】	口縁～胴上部。
		3	30-16	5	弥生土器	甕	(11.0)	—	【6.25】	口縁～胴上部。
		4	30-16	5	弥生土器	甕	(14.0)	—	【6.8】	口縁～胴上部。
		5	30-1	8	弥生土器	甕	(14.0)	—	【4.5】	口縁～胴上部。
		6	30-13	5・6	弥生土器	甕	(13.8)	—	【1.85】	口縁部。
		7	30-13	5・6	弥生土器	甕	(11.8)	—	【1.1】	口縁部。
		8	30-16	5	弥生土器	甕	—	—	【1.85】	口縁部。
		9	30-16	5	弥生土器	甕	—	—	【1.2】	口縁部。
		10	30-16	5	弥生土器	甕	—	—	【4.5】	胴上部。
		11	30-16	5	弥生土器	甕	—	(4.7)	【13.2】	胴～底部。
		12	30-10	8	弥生土器	甕・直	—	(8.0)	【2.4】	底部。
		13	30-16	5	弥生土器	甕・直	—	(8.0)	【2.2】	底部。
		14	30-1	8	弥生土器	甕・直	—	(4.2)	【2.1】	底部。
		15	30-14	2	弥生土器	甕・直	—	(5.2)	【3.3】	底部。
		16	30-16	5	弥生土器	鉢	(16.6)	—	【4.85】	口縁～胴部。
		17	30-1	5	須恵器	坏	(12.2)	(8.4)	4.05	口縁～底部。
		18	30-13	5・6	須恵器	坏・直	—	—	【1.35】	口縁部。
北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡	3-7	1	2	5・6	縄文土器	深鉢	—	—	【8.0】	胴上部。外面に押型文あり。 内面に土糸の残存あり。
		2	8	遺構①-1	弥生土器	甕	(26.3)	—	【17.4】	口縁～胴部。外面に削り出しによる段あり。 外面に付着。
		3	8	遺構①-1	弥生土器	甕	—	—	【2.9】	口縁部。 外面に付着。
		4	8	2	弥生土器	甕	—	—	【2.3】	口縁部。
		5	8	2	弥生土器	甕	—	—	【3.65】	口縁～胴上部。
		6	4	3～5	弥生土器	甕	—	—	【3.7】	口縁～胴上部。
		7	8	3	弥生土器	甕	—	—	【3.7】	胴上部。 外面に木葉文あり。
		8	3	3～5	弥生土器	甕	—	—	【7.6】	口縁～胴部。
		9	4	3～5	弥生土器	甕	—	—	【1.3】	口縁部。
		10	6	4	弥生土器	高坏	—	—	【5.7】	胴部。 外面に凹線。矢羽溝あり。
		11	3	3～5	弥生土器	甕	—	—	【9.3】	二次口縁～胴部。複合口縁部。 二次口縁外面に衝面文あり。
		12	4	3～5	弥生土器	甕	(18.0)	—	【4.5】	口縁部。
		13	3	4	弥生土器	甕	(18.6)	—	【12.7】	口縁～胴部。 外面に付着。
		14	3	3～5	弥生土器	甕	(17.2)	—	【11.6】	口縁～胴部
		15	3	4	弥生土器	甕	(15.6)	—	【15.3】	口縁～胴部 外面に付着。
		16	3	3～5	弥生土器	甕	(19.8)	—	【5.3】	口縁～胴上部。 粘土紐の接合痕あり。
北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡	3-9	17	4	3～5	弥生土器	甕・直	—	(3.2)	【12.1】	胴～底部。
		18	2	5・6	弥生土器	甕・直	—	(9.0)	【6.0】	胴～底部。
		19	6	4	弥生土器	甕・直	—	(7.8)	【7.9】	胴～底部。
		20	10	11	弥生土器	甕・直	—	(5.0)	【3.65】	底部。

(※)：還元値 【※】：埋存値

遺跡名	国	遺物番号	調査区(tr)	層・遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	底径	器高	
北竹下Ⅰ・Ⅱ遺跡・南竹ノ下遺跡	3-9	21	10	11	弥生土器	甕・甕	-	(6.4)	[4.2]	底部。
		22	8	3	弥生土器	甕・甕	-	(8.0)	[3.55]	底部。
		23	3	3～5	弥生土器	甕・甕	-	(5.8)	[3.9]	底部。
		24	2	3～5	弥生土器	甕・甕	-	(6.0)	[3.0]	底部。
		25	2	3～5	弥生土器	甕・甕	-	(6.2)	[3.5]	底部。
		26	4	5	弥生土器	鉢	(20.8)	(3.0)	6.4	口縁～底部。
		27	8	3	弥生土器	鉢	(18.4)	-	[5.1]	口縁～胴部。
		28	6	4	弥生土器	鉢	(22.8)	-	[7.2]	口縁～胴部。
		29	9	4～9	弥生土器	高坏	-	-	[5.8]	脚部。 円形透孔あり。
		30	7	6・7	瓦器	埴	(15.0)	(5.4)	4.5	口縁～底部。
		31	1	遺構①	土師器	鉢・釜	-	-	[6.2]	脚部。
星野遺跡・松の木遺跡周辺	3-27	1	35	遺構①～③	弥生土器	甕	-	-	[5.0]	二次口縁部。複合口縁部。 外面に縞線状文あり。
		2	35	遺構①～③	弥生土器	甕	(14.4)	-	[3.45]	二次口縁部。複合口縁部。 外面に縞線状文あり。
		3	35	遺構①～③	弥生土器	甕	(16.0)	-	[2.25]	口縁部。
		4	35	遺構①～③	弥生土器	甕	(12.6)	-	[1.4]	口縁部。
		5	35	遺構①～③	弥生土器	甕	(13.6)	-	[2.5]	口縁部。
		6	35	遺構①～③	弥生土器	甕	(20.0)	-	[2.5]	口縁部。
		7	35	遺構①～③	弥生土器	甕・甕・鉢	-	6.4	[3.95]	底部。 器表面に焼成時の破裂痕跡あり。
		8	21-1	4	弥生土器	甕・甕・鉢	-	(8.2)	[4.65]	底部。
		9	35	遺構①～③	弥生土器	甕・甕・鉢	-	(6.0)	[6.2]	底部。
		10	35	遺構①～③	弥生土器	甕・甕・鉢	-	(4.0)	[4.05]	底部。
		11	35	遺構①～③	弥生土器	甕・甕・鉢	-	1.9	[4.0]	底部。
		12	35	遺構①～③	弥生土器	甕・甕・鉢	-	6.0	[10.0]	胴～底部。
		13	35	遺構①～③	弥生土器	鉢	-	-	[6.6]	口縁～胴部。
		14	13	6	須恵器	坏	-	(10.0)	[1.85]	底部。
		15	13	4	須恵器	皿	-	-	1.2	口縁～底部。
		16	13	3	須恵器	甕・坏	-	(4.6)	[0.9]	底部。
		17	15-1	5	須恵器	鉢	(21.4)	-	[2.9]	口縁部。東播磨。 自然釉あり。
		18	13	6	土師器	坏・甕・皿	-	(7.0)	[1.2]	底部。
		19	12-2	4	土師器	坏・甕・皿	-	(6.2)	[2.0]	底部。
		20	13	3	土師器	甕	(15.6)	-	[1.8]	口縁部。
		21	33-2	3	土師器	甕	-	-	[2.0]	口縁部。
		22	39	4・5	土師器	甕	-	-	[4.1]	口縁～胴部。
		23	13	3	土師器	鉢	-	-	[4.05]	口縁部。
		24	16	5	土師器	釜	(16.4)	-	[3.55]	口縁～胴上部。
		25	38	6	土師器	釜	-	-	[3.85]	口縁～胴上部。

(※): 復元値 【※】: 残存値

遺跡名	国	遺物番号	調査区 (tr)	層・遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	底径	器高	
星野遺跡・松の木遺跡周辺	3-27	26	39	4・5	土師器	釜	-	-	【2.4】	口縁～胴上部。
		27	1-2	2	土師器	釜	-	-	【3.2】	口縁～胴上部。
		28	37	3	土師器	甕・壺	-	-	【6.6】	胴部。
		29	13	3	陶器	皿 (13.4)	-	-	【1.5】	口縁部。 灰釉または緑釉陶器。
		30	3	4	磁器	碗	-	-	【2.3】	口縁部。龍泉窯系青磁。 蓮華文あり。
		31	13	3	磁器	碗	-	-	【1.6】	口縁部。龍泉窯系青磁。 緑蓮華文あり。
		32	16	5	瓦	平瓦	長【6.4】	幅【5.0】	厚【2.0】	
		写真図版	25	23	4・5	金属製品	不明	長【6.5】	幅【0.8】	-
徳田中学校1・II遺跡周辺	3-28	1	33	5	弥生土器	壺	(14.0)	-	【3.9】	頸～肩部。
		2	33	5	弥生土器	壺	-	-	【6.6】	口縁～頸部。 貼付突起にヘラ線斜格子文あり。
		3	33	5	弥生土器	甕・壺	-	(6.0)	【4.8】	底部。
		4	33	5	弥生土器	甕	(18.8)	-	【2.85】	口縁部。
		5	39	5	弥生土器	甕	-	-	【4.6】	口縁～胴上部。 外面に煤付着。
		6	30	5・6	弥生土器	鉢	-	-	【6.1】	口縁～胴部。
		7	26-2	3	弥生土器	鉢	-	-	【5.1】	頸部～胴部。
		8	46	9	須恵器	蓋	(9.4)	-	【3.2】	天井～口縁部。
		9	4	5	須恵器	蓋	-	-	【1.6】	天井部。
		10	4	5	須恵器	蓋	(10.6)	-	【1.4】	口縁部。
		11	46	9	須恵器	坏	(12.5)	-	【3.0】	口縁～胴部。
		12	18	2	須恵器	坏	(13.8)	-	【2.2】	口縁部。
		13	17	4	須恵器	坏	(11.6)	-	【2.1】	口縁部。
		14	46	9	須恵器	坏	-	(9.4)	【1.55】	底部。
		15	4	5	須恵器	坏	-	(8.8)	【1.1】	底部。
		16	7	4	須恵器	壺	-	(13.0)	【5.5】	胴部～底部。
		17	46	5	須恵器	甕	-	-	【8.7】	胴部。 内面に青釉文あり。
		18	46	9	須恵器	甕	-	-	【5.15】	胴部。
		19	44	2	須恵器	鉢	-	-	【3.4】	口縁部。 車轆轤文。
		20	18	2	須恵器	鉢	(9.0)	-	【2.7】	口縁～胴部。
		21	46	9	須恵器	高坏	-	-	【8.65】	脚部。
		22	4	5	須恵器	高坏	-	(7.8)	【0.7】	脚端部。
		23	4	5	須恵器	高坏	-	(9.3)	【1.8】	脚端部。
		24	4	5	須恵器	高坏	-	(11.9)	【1.2】	脚端部。
		25	46	9	土師器	坏	-	(14.2)	【3.2】	口縁～胴部。
		26	46	9	土師器	坏	-	(6.0)	【1.8】	底部。
		27	58	6	土師器	坏	-	(6.6)	【1.9】	底部。 口縁にヘラ切り痕あり。
		28	20	3	土師器	鍋	-	-	【3.2】	口縁～胴部。
		29	28	3	土師器	釜	-	-	【3.15】	口縁～胴上部。 外面に煤付着。

(※)：復元値 (※※)：推定値

遺跡名	国	遺物番号	調査区 (tr)	層・ 遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	底径	器高	
徳田中学校Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺		30	28	3	土師器	釜	(21.2)	-	[7.2]	口縁へ胴部。
		31	24	4	瓦器	埴	-	(5.0)	[1.9]	底部。
		32	32	5・6	陶器	埴	-	(6.0)	[1.3]	底部。緑釉陶器。 内面に沈線あり。削りだし高台。
		33	30	4	磁器	碗	-	-	[1.3]	口縁部。 青磁。
		34	76	3	磁器	碗	(18.8)	-	[2.8]	口縁へ胴部。 白磁。
		35	58	5	土製品	土師	長 2.75	幅 1.8		
		36	58	6	石製品	砥石	縦 8.8	横 3.9	厚 2.3	砂岩製。
つくも山古墳周辺		37	42	5・6	石製品	砥石	縦 9.0	横 4.1	厚 1.5	砂岩製。
		1	2	4	須恵器	埴	(14.5)	-	[4.4]	口縁へ胴部。
		2	3	6	須恵器	埴	-	-	[2.9]	受け部へ胴部。
		3	3	6	須恵器	埴	-	-	[4.4]	口縁へ胴部。 内面に自然釉あり。
		4	19	4	須恵器	埴	-	-	[2.55]	口縁へ胴上部。
		5	44	7	須恵器	埴	(15.2)	-	[3.15]	口縁へ胴上部。 外面に自然釉あり。
		6	1	10	須恵器	甕	-	-	[8.65]	胴部。斜め方向のヘラ跡と沈線あり。
		7	3	6	須恵器	甕	-	-	[3.0]	底部。
		8	13	8	須恵器	鉢	-	-	[2.55]	口縁部。 東播磨。
		9	9	7	須恵器	鉢	-	-	[3.8]	口縁部。東播磨。 外面に自然釉あり。
		10	41	8	土師器	皿	(14.0)	(10.6)	2.0	口縁へ底部。
		11	41	8	土師器	皿	(15.2)	(12.4)	1.4	口縁へ底部。 底部に回転へタ切り痕あり。
		12	41	8	土師器	皿	(7.65)	(5.8)	1.35	口縁へ底部。
		13	23	3・4	土師器	杯・皿	-	(10.6)	[1.2]	底部。
		14	19	4	土師器	杯・皿	-	(6.6)	[1.9]	底部。
		15	23	5	土師器	杯・皿	-	(7.2)	[1.3]	底部。
		16	19	4	土師器	杯・皿	-	(9.6)	[1.5]	底部。
		17	19	4	土師器	甕	-	-	[3.7]	口縁へ胴部。
		18	14	5	土師器	甕	-	-	[2.55]	口縁部。
		19	19	4	土師器	高杯	-	-	[2.4]	口縁部。 内外面に赤色塗彩あり。
		20	27	6	瓦器	埴	(14.0)	-	[1.45]	口縁部。
		21	19	4	瓦器	埴	-	-	[2.7]	口縁部。
		22	24	3	瓦質土器	鉢	-	-	[1.7]	口縁部。
		23	21	1	磁器	碗	-	-	[1.7]	口縁部。龍泉窯系青磁。 裾達弁あり。
		24	1	10	石製品	石磨	縦 2.55	横 2.1	厚 0.55	
		25	19	4	石製品	不明	縦 12.9	横 3.2	厚 3.2	礫石または石鉢の可能性あり。

第4章 総括

国営緊急農地再編整備事業に伴い、平成29～令和3年度にかけて3団地で試掘・確認調査を実施した結果、全ての団地で遺跡の広がりを確認した。その広がりは包蔵地範囲外にも及び、各包蔵地で遺跡範囲を見直すこととなった。

安用団地では、新たに弥生時代後期項を主体とする南竹ノ下遺跡の広がりが確認された。同じ丘陵裾部の北側には、北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡が広がり、前回の試掘調査や今回の確認調査でも、後期項の遺物が出土している。また、当団地北西の丘陵上には、弥生時代中期後半～後期の遺構と遺物が確認された北谷山遺跡が所在する。よって、弥生時代後期には、丘陵先端から裾部にかけて遺跡が広範囲に展開していたことが窺える。さらに、北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡・南竹ノ下遺跡での確認調査では、発掘調査予定地の堆積状況を詳細に確認した。また、北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡では、遺跡の時期に縄文時代早期や弥生時代前期が加わる可能性が考えられるなど、調査計画を立案する上で貴重なデータを得ることができた。複数の遺物包含層が重なることから、発掘調査は困難を極めることが予想されるが、このデータを基に計画的に発掘調査を進め、遺跡の保護・理解を行ってきたい。

古田団地では、星野遺跡・松の木遺跡周辺と徳田中学校Ⅰ遺跡・徳田中学校Ⅱ遺跡周辺で主に弥生土器や古代の土器を含む中世頃の遺物包含層を検出し、幅広い時期の遺跡がほぼ場整備予定地の広範囲に広がることが明らかとなった。星野遺跡・松の木遺跡周辺では、近現代の田面形成による造成等の下層に、急斜面に沿って遺跡が広がっている。遺跡の主体時期は、星野遺跡・松の木遺跡が弥生時代であるのに対し、徳田中学校Ⅰ遺跡・徳田中学校Ⅱ遺跡周辺では中世である可能性があり、隣接する遺跡間で若干異なる可能性がある。この違いに関しては、有無も含め今後の調査でより明らかになると考えられる。上記の遺跡に対し、古田明堂古墳周辺では、遺跡の広がりは確認されなかった。

高松団地では、周辺も含めこれまで調査がほとんど行われておらず、遺跡の広がりは墳丘状の高まりがあることから想定されていたに過ぎなかった。しかし、今回試掘調査を行った結果、すくも山古墳周辺で古墳時代や古代の土器を含む中世頃の遺物包含層を確認するなど、遺跡の広がりを確認した。今回、すくも山古墳に伴うと断定できる遺構は確認できていないが、周囲の可能性を残す土層の堆積を検出している。また、高松大塚遺跡周辺では遺跡の広がりは確認できていないが、旧河川が存在が想定され、周辺の環境を復元する上で貴重な資料を得ることができた。これまで空白部分が多かった当地域の遺跡の広がりが性格について、その様相の一端を明らかにすることができている。

以上、平成29年度から実施した試掘調査結果を概観した。今回得られた成果は断片的なものであるため、直ちに遺跡の評価に結び付けることは慎重にならざるを得ないが、中山川左岸の歴史を解明する上で重要かつ有用性が高いものである。各遺跡については、今後更なる資料を蓄積しつつ、より実体に即した歴史的評価を与えていきたい。

＜参考文献＞

今井信太郎編 1983『実報寺尾山遺跡・広岡北谷山遺跡調査報告書』東予市教育委員会

鈴木主編 2020『市内遺跡試掘調査報告書』西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集、西条市教育委員会

写 真 图 版

写真図版 1 南竹ノ下遺跡



1 30-1tr 西壁



2 30-2tr 東壁



3 30-3tr 南壁



4 30-4tr 西壁



5 30-5tr 西壁



6 30-6tr 西壁



7 30-7tr 西壁



8 30-8tr 西壁

写真図版2 南竹ノ下遺跡



1 30-9tr 西壁



2 30-10tr 東壁



3 30-11tr 東壁



4 30-12tr 西壁



5 30-13tr 西壁



6 30-14tr 東壁



7 30-15tr 東壁



8 30-16tr 東壁

写真図版3 南竹ノ下遺跡(1~3) 北竹ノ下Ⅱ遺跡(4~8)



1 30-17tr 南壁



2 2-1tr 南壁



3 2-2tr 南壁



4 1tr 南壁



5 2tr 南壁



6 3tr 西壁



7 4tr 西壁



8 5tr 南壁

写真図版4 北竹ノ下I遺跡(1~4) 南竹ノ下遺跡(5)



1 6tr 東壁



2 7tr 東壁



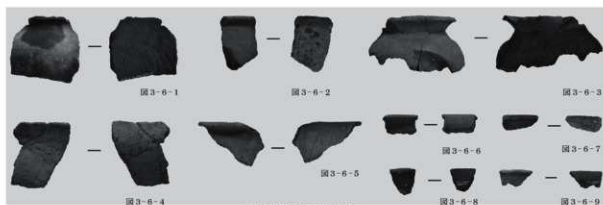
3 8tr 南壁



4 9tr 南壁

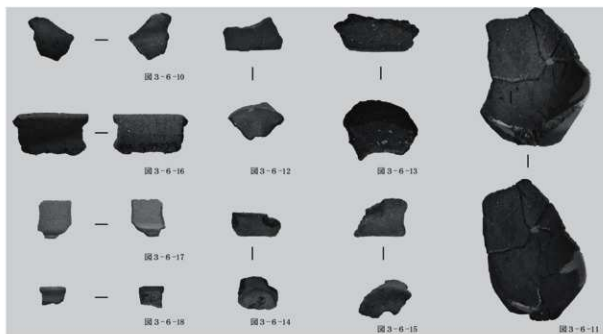


5 10tr 南壁

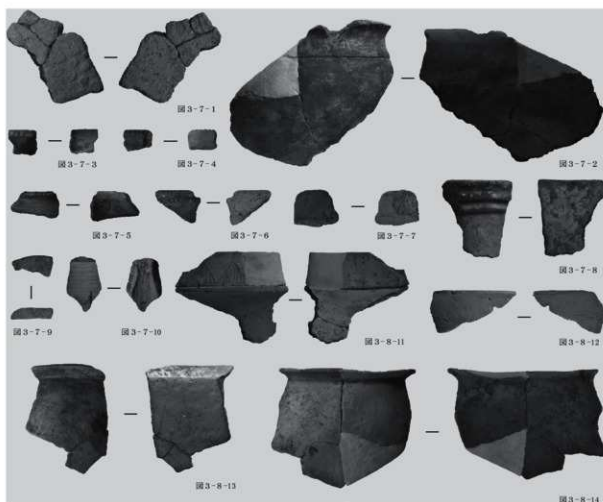


試掘調査出土遺物 1

写真図版 5 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡

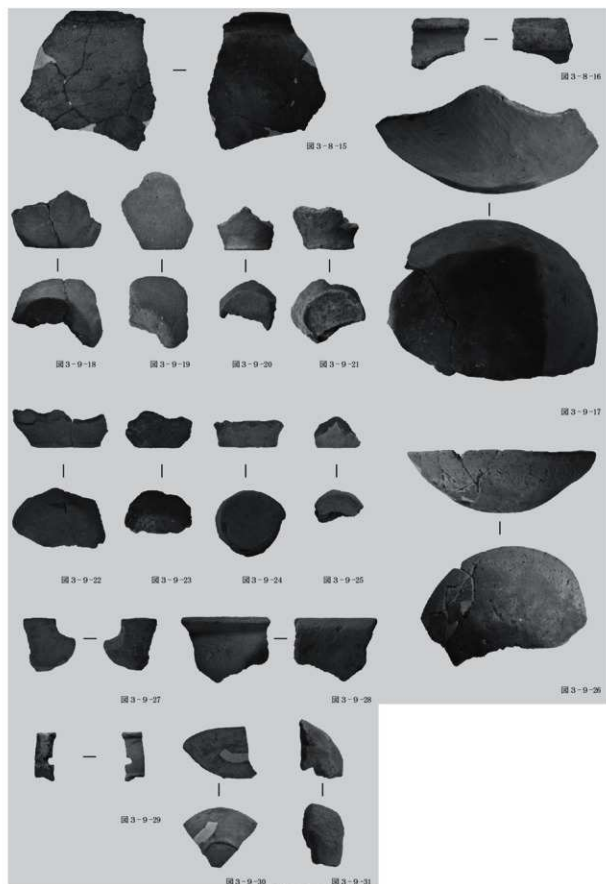


試掘調査出土遺物 2



確認調査出土遺物 1

写真図版 6 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡



確認調査出土遺物 2



1 1-1tr 南壁



2 1-2tr 南壁



3 2tr 南壁



4 3tr 南壁



5 4tr 北壁



6 5tr 北壁



7 6-1tr 南壁



8 6-2tr 南壁

写真図版 8 星野遺跡・松の木遺跡周辺



1 7-1tr 南壁



2 7-2tr 南壁



3 8-1tr 北壁



4 8-2tr 北壁



5 9tr 北壁



6 10-1tr 南壁



7 10-2tr 南壁



8 11tr 南壁



1 12-1tr 南壁



2 12-2tr 南壁



3 13tr 南壁



4 14tr 南壁



5 15-1tr 北壁



6 15-2tr 北壁



7 16tr 南壁



8 17tr 北壁

写真図版 10 星野遺跡・松の木道跡周辺



1 18tr 西壁



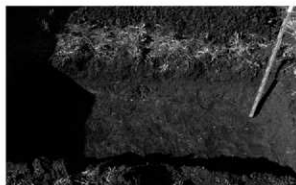
2 19-1tr 北壁



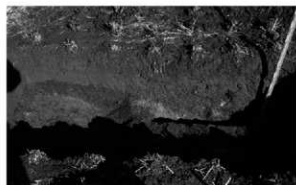
3 19-2tr 北壁



4 20tr 北壁



5 21-1tr 北壁



6 21-2tr 北壁



7 22tr 北壁



8 23tr 北壁



1 24tr 北壁



2 25tr 南壁



3 26tr 北壁



4 27-1tr 南壁



5 27-2tr 南壁



6 28-1tr 南壁



7 28-2tr 北壁



8 29tr 北壁



1 30tr 北壁



2 31tr 北壁



3 32-1tr 北壁



4 32-2tr 北壁



5 33-1tr 南壁



6 33-2tr 南壁



7 34tr 南壁



8 35tr 北壁



1 37tr 南壁



2 38tr 北壁



3 39tr 北壁



4 40tr 北壁



5 41tr 南壁



6 43tr 北壁



7 44tr 北壁



8 45tr 北壁



1 1tr 南壁



2 2tr 北壁



3 3tr 北壁



4 4tr 北壁



5 7tr 北壁



6 8tr 北壁



7 9tr 北壁



8 10tr 北壁



1 11tr 北壁



2 12tr 北壁



3 13tr 北壁



4 14tr 北壁



5 15tr 西壁



6 16tr 北壁



7 17tr 北壁



8 18tr 北壁



1 20tr 北壁



2 21tr 南壁



3 23tr 北壁



4 24tr 北壁



5 26-1tr 北壁



6 26-2tr 北壁



7 27tr 北壁



8 28tr 北壁



1 29tr 南壁



2 30tr 北壁



3 31tr 北壁



4 32tr 北壁



5 33tr 北壁



6 34tr 南壁



7 35tr 南壁



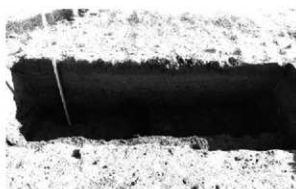
8 36tr 南壁



1 37tr 南壁



2 38tr 南壁



3 39tr 南壁



4 40tr 南壁



5 41tr 南壁



6 42tr 南壁



7 43tr 南壁



8 44tr 南壁



1 46tr 南壁



2 47tr 南壁



3 48tr 南壁



4 49tr 南壁



5 50tr 西壁



6 51tr 南壁



7 52tr 西壁



8 54tr 南壁



1 55tr 西壁



2 57tr 南壁



3 58tr 南壁



4 59tr 南壁



5 60tr 南壁



6 61tr 南壁



7 62tr 南壁



8 63tr 南壁



1 64tr 南壁



2 65tr 南壁



3 66tr 南壁



4 67tr 南壁



5 68tr 西壁



6 69tr 西壁



7 70tr 南壁



8 71tr 北壁

写真図版 22 徳田中学校 I・II 遺跡周辺



1 72tr 西壁



2 73tr 北壁



3 74tr 北壁



4 76tr 南壁



5 77tr 北壁



6 78tr 南壁



7 81tr 南壁



8 82tr 南壁



1 84tr 東壁



2 85tr 西壁



3 86tr 西壁



4 87tr 南壁



5 88tr 南壁



6 89tr 西壁



7 90tr 南壁



8 91tr 西壁

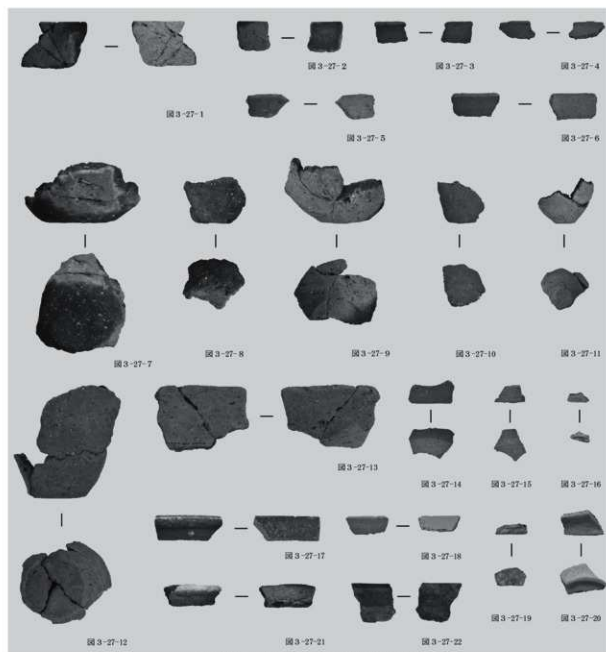
写真図版 24 古田明堂古墳周辺 星野遺跡・松の木遺跡周辺



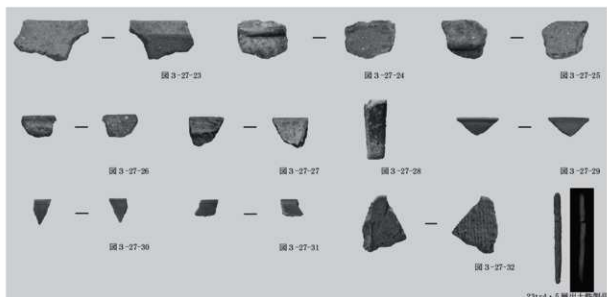
1 1 tr 南壁



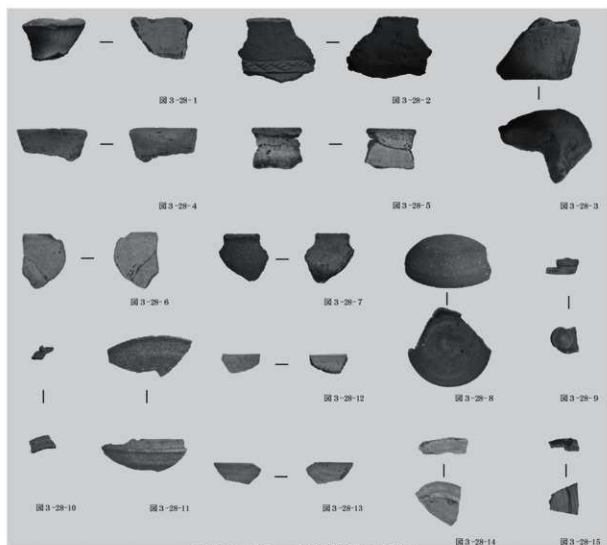
2 2 tr 南壁



星野遺跡・松の木遺跡周辺出土遺物 1

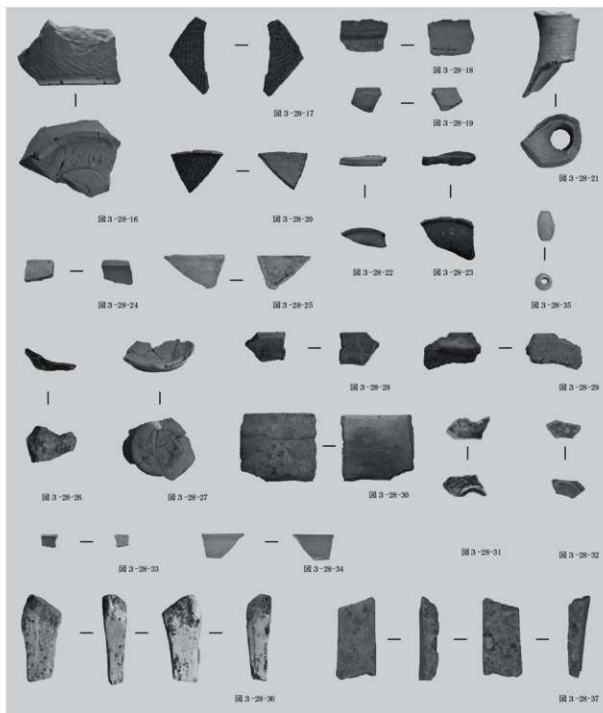


星野遺跡・松の木遺跡周辺出土遺物 2



徳田中学校 I・II 遺跡周辺出土遺物 1

写真図版 26 徳田中学校 I・II 遺跡周辺



徳田中学校 I・II 遺跡周辺出土遺物 2



1 1 tr 北壁



2 2 tr 南壁



3 3 tr 東壁



4 4 tr 南壁



5 5 tr 南壁



6 6 tr 北壁



7 7 tr 北壁



8 8 tr 東壁

写真図版 28 すくも山古墳周辺



1 9tr 南壁



2 10tr 西壁



3 11tr 東壁



4 12tr 南壁



5 13tr 北壁



6 14tr 南壁



7 15tr 南壁



8 16tr 南壁



1 17tr 東壁



2 18tr 東壁



3 19tr 東壁



4 20tr 東壁



5 21tr 南壁



6 22tr 南壁



7 23tr 南壁



8 24tr 南壁



1 25tr 東壁



2 26tr 北壁



3 27tr 東壁



4 28tr 西壁



5 29tr 西壁



6 30tr 西壁



7 32tr 西壁



8 36tr 南壁



1 37tr 西壁



2 38tr 北壁



3 39tr 南壁



4 40tr 東壁



5 41tr 南壁



6 44tr 東壁



7 45tr 東壁



8 50tr 東壁

写真図版 32 高松大塚遺跡周辺 すくも山古墳周辺

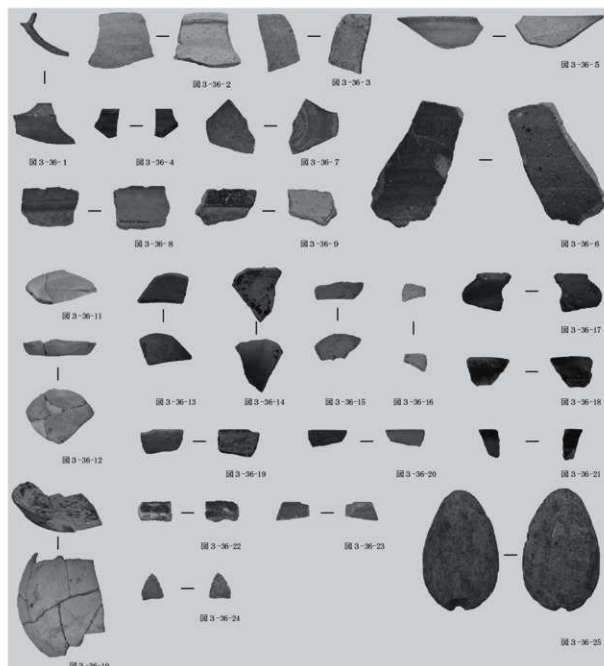
高松岡地



1 1 tr 南壁



2 4 tr 西壁



すくも山古墳周辺出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきしつちようさほうこくしょ								
書 名	市内遺跡試掘調査報告書3								
副 書 名	国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅱ								
シリーズ名	西条市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第9集								
編 著 者 名	鈴木 圭								
編 集 機 関	西条市教育委員会								
所 在 地	〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164番地 TEL (0897) 56-5151 (代)								
発 行 年 月 日	2023年3月31日								
団 地 名	所収遺跡名	所 在 地	コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
			市町村番号	遺跡番号					
安 用	北竹ノ下1遺跡	愛媛県西条市 安用・石延・広岡	38206	33° 53' 46"	133° 04' 03"	20181105 20181108 20190115	78.14 m ²		
	北竹ノ下2遺跡	愛媛県西条市 安用・石延・広岡	38206	33° 55' 37"	133° 02' 36"	20190116 20200430 20210216			
	南竹ノ下遺跡	愛媛県西条市 安用・石延	38206	33° 55' 23"	133° 03' 10"	20210224			
古 田	星野遺跡	愛媛県西条市 丹原町古田	38206	33° 54' 40"	133° 02' 25"	20170823 20170830 20171001	321.8 m ²	国営緊急農地 再編整備事業	
	松の木遺跡	愛媛県西条市 丹原町古田	38206	33° 54' 40"	133° 02' 33"	20171120 20180125 20180827			
	徳田中学校1遺跡	愛媛県西条市 丹原町古田	38206	33° 54' 39"	133° 02' 40"	20180829 20181120 20191129			
	徳田中学校2遺跡	愛媛県西条市 丹原町古田	38206	33° 54' 38"	133° 02' 45"	20191204 20200212 20200220 20201013 20201015 20211101 20211116 20220201 20220202			
	古田明堂古墳	愛媛県西条市 丹原町古田	38206	33° 54' 18"	133° 02' 22"				
	すくも山古墳	愛媛県西条市 丹原町高松	38206	33° 53' 57"	133° 03' 03"	20170831 20171120 20171121 20180125 20181129 20181130 20190117 20191205			
高 松	高松大塚遺跡	愛媛県西条市 丹原町高松	38206	33° 53' 49"	133° 03' 07"	20191209 20200317 20200518 20201012 20201013 20201127 20211117 20220203	106.8 m ²		
						20220207 20220315			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北竹ノ下Ⅰ遺跡 北竹ノ下Ⅱ遺跡	散布地、 集落	弥生、古代、中世	土坑、溝	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、瓦器、 陶器、磁器	
南竹ノ下遺跡	散布地	弥生	なし	弥生土器	
星野遺跡 松の木遺跡	散布地	弥生、古代、中世	柱穴、溝	弥生土器、土師器、須恵器、 陶器、磁器、瓦、鉄製品	
徳田中学校Ⅰ遺跡 徳田中学校Ⅱ遺跡	散布地	弥生、古代、中世	柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、 瓦器、陶器、磁器、土製品、 石製品	
古田明家古墳	古墳	なし	なし	なし	調査範囲内に遺跡の広がり は確認されなかった。
すくも山古墳	古墳	古墳、古代、中世	柱穴、溝	土師器、須恵器、瓦器、 磁器、石製品	
高松大塚遺跡	古墳	なし	なし	なし	調査範囲内に遺跡の広がり は確認されなかった。
要 約	今回の試掘調査は国営緊急農地再編整備事業に伴うもので、平成29年度～令和3年度までの調査成果を所収している。 試掘調査は3団地で実施し、各団地で遺跡の広がり確認された。安用団地では北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡、南竹ノ下遺跡、古田団地では星野遺跡・松の木遺跡・徳田中学校Ⅰ遺跡・徳田中学校Ⅱ遺跡、高松団地ではすくも山古墳周辺で遺跡が広がり、遺跡ごとに存続時期は異なるが大まかに弥生時代から中世の時期幅の中に収まる遺構や遺物等を確認した。				

西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

市内遺跡試掘調査報告書3

国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅱ

2023年(令和5年)3月31日

編集・発行 西条市教育委員会
愛媛県西条市明屋敷164番地

印刷 有限会社 野口印刷所

この電子書籍は、西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集を底本として作成しました。
本データは、閲覧を目的としています。詳細な図版などが必要な場合には、底本から引用してください。

底本は、西条市内の図書館、愛媛県内の市町教育委員会、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：市内遺跡試掘調査報告書3

発行：西条市教育委員会

〒793-8601

愛媛県西条市明屋敷164番地

電話：0897-56-5151

電子書籍制作日：2024年8月9日